

茨木市次世代育成支援行動計画

実施状況報告書

令和7年(2025年)10月

茨 木 市

目 次

I 概要

1 趣旨	i
2 PDCA サイクルとは	i
3 PDCA の実際の流れ	ii

II 施策の展開

1 ライフステージごとの施策

◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 (No. 1101-1110)	1
◇妊娠・出産期からの切れ目のない保健・福祉の支援 (No. 1111)	11
◇こどもの健康保持・増進 (No. 1201-1208)	12
◇就学前教育・保育体制の充実 (No. 1209-1217)	20
◇子育て支援サービスの充実 (No. 1218-1229)	29
◇地域ぐるみの子育て支援 (No. 1230-1234)	41
◇児童・生徒の健康への支援 (No. 1301-1304)	46
◇「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育の推進 (No. 1305-1308)	50
◇さまざまな悩みに対応する体制の充実 (No. 1309-1312)	54
◇学校・地域・家庭への連携 (No. 1313-1320)	58
◇安全で安心な居場所づくり (No. 1321-1328)	66
◇若者の自立を目指した支援 (No. 1401-1402)	74
◇就労支援 (No. 1403-1404)	76
◇青少年の健全育成 (No. 1405-1410)	78

2 社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり

◇ひとり親家庭への支援 (No. 2101-2117)	84
◇障害児・医療的ケア児の健やかな育ちの支援 (No. 2201-2211)	101
◇児童虐待防止対策の強化 (No. 2301-2303)	112
◇外国人など配慮が必要な家庭への支援 (No. 2401-2402)	115
◇こどもの貧困の解消に係る対策 (No. 2501-2509)	117
◇ヤングケアラーへの支援 (No. 2601-2602)	126

3 社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり

◇子ども・若者が権利の主体であることの共有 (No. 3101-3102)	128
◇社会参画や意見表明の機会の充実 (No. 3201)	130
◇包括的な支援ネットワークの充実 (No. 3301-3305)	131
◇活躍できる機会づくり (No. 3401)	136
◇犯罪などから子ども・若者を守る取組 (No. 3501-3508)	137

4 こどもを持ち育てたいと思える環境づくり

◇ワーク・ライフ・バランスを図るための職場環境改善に向けた支援（No. 4101-4104）	145
◇子育てや教育に関する経済的負担の軽減（No. 4201-4207）	149
◇共働き・共育ての推進（No. 4301-4302）	156

I 概要

1 趣旨

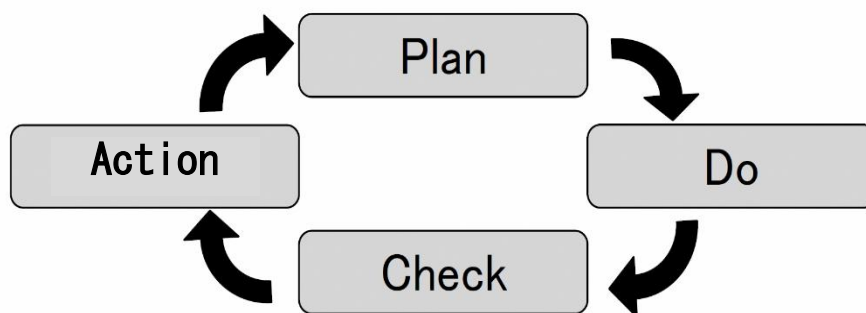
この報告書は、「茨木市次世代育成支援行動計画(第4期)」(令和2(2020)年3月、以下「第4期計画」という。)における評価と課題をふまえ、「茨木市次世代育成支援行動計画(第5期)」(令和7(2025)年3月策定、以下「第5期計画」という。)に位置付けた諸施策(事業)について令和6(2024)年度実績を分析及び評価した結果をとりまとめたものです。

2 PDCAサイクルとは

「PDCAサイクル」とは、さまざまな分野・領域において品質改善や業務改善に向けて、広く活用されているマネジメント手法で、「計画(Plan)」「実行(Do)」「評価(Check)」「改善(Action)」のプロセスを順に実施していくものです。

計画を立て、それを実行し、結果を評価した後、改善して次のステップへと繋げていく過程は、日常業務を進めていくうえで、ひいては業務や市民サービスの質を高めるうえで大変役立ちます。

■PDCAサイクルのイメージ



計画 (Plan)	目標を設定し、目標達成に向けた活動を立案する
実行 (Do)	計画に基づき活動を実行する
評価 (Check)	活動を実施した結果を把握・分析し、考察する(学ぶ)
改善 (Act)	考察に基づき、計画の目標、活動などを見直しする

3 PDCAサイクル実施の流れ

第5期計画に基づく施策(事業)を評価するためのPDCAサイクルに沿った作業手順は、以下に示すとおりです。

作業は「第5期計画 施策(事業)評価シート」の作成により行います。

■第5期計画 施策(事業)評価シート作成作業の流れ



Ⅱ

施策の展開

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策															
施策の方向		◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実															
		①妊娠・出産に関する相談・情報の提供															
担当課		子育て支援課															
実施事業	事業No.	1101			事業名		妊婦等包括相談支援										
	SDGs																
				○													
	事業内容	妊婦・そのパートナーなどに対して保健師、助産師、保育士などが、妊娠届出時、妊娠8か月頃や出生届出後に、面談などにより情報提供や相談など(伴走型相談支援)を行います。妊婦のための支援給付と併せて実施し、面談後も継続的な情報発信や希望に応じた相談対応を行い、必要に応じて関係機関と連携を図りながら、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
妊娠届時、受診券交換時面談数	件数	2,454						全妊婦
妊娠8ヶ月面談希望者への面談実施率	%	96%						全妊婦
できたこと(達成したこと)	母子保健と児童福祉の機能が連携しながら、対象者のニーズに沿った情報提供ができた。また、妊娠8か月面談についても、出産前の不安や心配に対し相談に応じることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	特になし。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、全数妊婦面談を実施し、必要な情報提供と支援が必要な妊婦の把握に努める。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策															
施策の方向		◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実															
		①妊娠・出産に関する相談・情報の提供															
担当課		子育て支援課															
実施事業	事業No.	1102		事業名		両親教室(パパ&ママクラス)											
	SDGs																
				○		○											
	事業内容	妊娠期から出産や育児に関する情報提供、相談支援体制の充実を図るため、妊婦とそのパートナー等が参加する講座を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		
												○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
パパママクラス参加人数	人	853						増やす
パートナー参加率	%	97.7						増やす
満足調査で「とてもよかった」「よかった」と回答した参加者の割合	%	94.2						増やす
できたこと(達成したこと)	令和6年9月から実施回数を増やし、より多くの妊婦とパートナーが両親教室に参加できるようになった。(受講者数:R5年度478人→R6年度853人)							
できなかったこと(達成できなかったこと)	参加申し込みのキャンセル待ちが発生する月もあったため、受講したいタイミングで受講できない妊婦もいた。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	参加申し込みのキャンセル待ちが発生する月と、定員に満たない月があり、タイムリーなニーズの把握が難しい。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ニーズの高い事業であることから、対象者を妊娠24週以降の妊婦とそのパートナーとして、参加できる日時の幅が広がるようにして、参加希望者が全員参加できるよう既に取り組んでいる。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策															
施策の方向		◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実															
		①妊娠・出産に関する相談・情報の提供															
担当課		子育て支援課															
実施事業	事業No.	1103				事業名		保健相談									
	SDGs																
				○													
	事業内容	家庭環境の問題や育児困難等、相談内容が複雑化・困難化していることを踏まえ、関係機関とのさらなる連携による支援体制の充実を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		
												○	○				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
① 面接指導(延人数)	人	5,305						増やす
② 電話指導(延人数)	人	4,943						増やす
できたこと(達成したこと)	おにクルへの移転後、土日祝日も窓口を開設したことなどにより、対面での相談を希望する母子が大幅に増加し、多くの相談に対応することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	相談件数は増加しているが、つながりにくい母子へのアプローチを検討する必要がある。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A		
	面接・電話指導ともに大幅に増加しており、相談者のニーズに対応することができた。その一方で、支援の必要な家庭に繋がるよう、関係機関との連携の強化していく必要がある。	

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	母子保健と児童福祉の連携を引き続き充実させるとともに、重層的支援体制の視点も取り入れた包括的支援体制を強化していく。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策															
施策の方向		◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実															
		①妊娠・出産に関する相談・情報の提供															
担当課		子育て支援課															
実施事業	事業No.	1104				事業名				訪問指導							
	SDGs																
				○													
	事業内容	妊産婦や乳幼児のいる家庭に、保健師・助産師等が訪問し、育児相談や子育て支援サービス等の情報提供等を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	社会全体で支援できる	子どもをもち育てたい
												○	○				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
訪問指導(延人数)	人	6,092						増やす
できたこと(達成したこと)	各家庭への訪問に加え、つどいの広場や子育てサロンなど地域拠点での訪問指導も充実させ、多くの相談等に対応することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A		
		訪問指導について、件数が大幅に増加し、ニーズに応えることができたが、タイムリーな支援が実施できるよう、事業の調整が必要な場合がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援依頼のあったケースについては、引き続き関係機関と連携しながら適切な支援に努める。問題が潜在しているケースについては、妊娠届出、乳幼児健診など、保健師等が全数面談できる機会にアセスメントし、支援につなげる。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																		
施策の方向		◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実																		
		②妊娠・出産期における健康の保持・増進																		
担当課		子育て支援課																		
実施事業	事業No.	1105			事業名		妊婦健康診査													
	SDGs																			
				○																
	事業内容	妊婦及び胎児の健康保持を図るとともに、妊娠状態を定期的に確認します。また、医療機関と連携し、保健指導や産後の育児不安の軽減等を図ります。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
													妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
													○							

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
延べ受診者数	人	26,673						27,305
できたこと(達成したこと)	妊婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図ることにより、安心して妊娠・出産できる環境整備ができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	妊婦健康診査を通じ妊婦及び胎児の健康保持を図ることができた。引き続き、妊婦健康診査の重要性について普及啓発を行っていく。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	妊娠届出時から妊婦健康診査の重要性について普及啓発を行うことや、医療機関等との連携を図り、妊婦の状況に合わせた支援を行い、妊婦健康診査が定期的に受診できるよう支援を行う。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1106			事業名		妊婦歯科健康診査												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	妊婦に対して、妊娠中の口腔管理を通して、安全・安心な出産をサポートします。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
											妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期					
												○							

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
妊婦歯科健康診査受診率	%	38.8						増やす
できたこと(達成したこと)	妊婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図ることにより、安心して妊娠・出産できる環境整備ができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	歯周病の重症化により、早産や低体重児出産の頻度が高まる可能性があることから、妊婦歯科健康診査の重要性について母子保健事業や産科・歯科医療機関を通じて、普及・啓発を行う

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、妊婦歯科健康診査の大切さについて、周知を図っていく。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1107			事業名		産前・産後ホームヘルパー派遣												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	産前・産後、体調不良かつ家族等のサポートが受けられないため、家事や育児が困難な家庭にホームヘルパーを派遣します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
												○							

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
利用人数	人	69						80
できたこと(達成したこと)	令和5年度利用人数(66人)を超える利用人数となり、ニーズに応えることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	利用者に対しては概ね個々の希望に沿った支援を行うことができ、産前産後時期の育児負担の軽減を図ることができた。その一方で、委託事業者のヘルパー不足や介護事業等提供の増加により本事業へのヘルパー等の派遣が難しい状況もあり、利用希望の意思を確認してから実際にサービス提供がはじまるまで待機をいただく方が生じた。そのため、各委託事業者と密に連絡をとりあい各事業者の状況を見極めながら派遣の依頼を行う必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
量的・質的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	委託事業者との関係性を強めることや新規委託事業者の開拓をすすめ、提供サービスの質を担保することを留意しながら、需要と供給のバランスをとることを目指す。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

担当課		こども政策課																		
実施事業	事業No.	1108			事業名		入院出産の助成													
	SDGs																			
		○		○																
	事業内容	誰もがこどもを安心して産めるように、経済的な理由により入院助産できない妊産婦に対し、入院助産に要する費用を一部助成します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 持てる環境	
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期					
○																				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
助成対象者数	人	8						—
できたこと(達成したこと)	関係機関からの情報提供等により、助成が必要となる市民に対し適切にサービス提供することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) —:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	関係機関との連携において、市民サービスの向上や事務の効率化等の観点から、担当課を検討する必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
質的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	経済的な理由により入院助産できない妊産婦に対し、より良いサービス提供ができるよう、妊娠・出産期における切れ目のない支援の充実に向けて、関係機関と調整する。

計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実																	
		②妊娠・出産期における健康の保持・増進																	
担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1109			事業名		産婦健康診査												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	出産後間もない時期にある産婦の心身の健康保持・増進を図るため、おおむね産後2週間、産後1か月に受診する産婦健康診査にかかる費用を助成します。 また、医療機関と連携し、育児不安の軽減等を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
												○							

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
産婦健康診査受診者数(実)	人	2,102						増やす
できたこと(達成したこと)	産婦健康診査の結果から産後早期から医療機関と連携を図ることができ、産婦への早期支援につなげることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	順調に実施できている。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、医療機関と連携を図り、支援が必要な産婦への早期支援に努める。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実																	
		②妊娠・出産期における健康の保持・増進																	
担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1110			事業名		産後ケア												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	支援を必要とする産後1年以内の母子に対して、産科医療機関や助産所などへの宿泊や通所により、心身のケアや育児のサポートなどを行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
												○							

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
利用延べ日数(宿泊型)	日	490						440
利用延べ日数(通所型)	日	15						59
できたこと(達成したこと)	事業を通じて、産婦の心身のケア、育児のサポートなどを実施することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	実施機関の空き状況により、産婦が希望する実施機関に案内できないことがあった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	多くの依頼に応えるよう努めているが、利用ニーズが増加している。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	受託事業者を増やしながら今後も継続して実施していく。

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇妊娠・出産期からの切れ目のない保健・福祉の支援(いばらき版ネウボラ)

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1111			事業名		妊娠・出産期からの切れ目のない支援(こども家庭センターの整備)												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	母子保健事業と子育て支援事業の一体的な提供により、子育て支援に関するワンストップサービスを行うこども家庭センターを整備し、関係機関と連携し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
											妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期					
												○	○	○	○				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
妊婦面談・子育てプランシート作成	件	2,454						全妊婦
できたこと(達成したこと)	妊娠届出の際の面談は全数に実施し子育てプランシート作成を行った。代理申請した場合も、後日妊婦本人とZOOM等で面談した。 面談時に妊婦のニーズに合わせた情報提供を行った。 支援が必要と思われる妊婦には妊娠期からの妊婦本人との関係づくり、関係機関との連携に努めた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	こども家庭センターの稼働により母子保健・児童福祉が連携しながら専門性を活かした支援に繋がった。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引続き今の体制の強みを活かしながら支援を継続していく。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇こどもの健康保持・増進																	
		①こどもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応																	
担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1201			事業名		乳幼児健康診査												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	乳幼児期において各種健康診査を実施し、疾病や発達上の課題を早期に発見し、医療及び療育へつなげ、保護者の育児不安の解消や虐待を未然に防ぐための支援に努めます。また、未受診児の状況を把握し、必要な支援を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 思える環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
			○																

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
4か月児健康診査受診率	%	98.2						98.5
1歳8か月児健康診査受診率	%	98.7						98.0
3歳6か月児健康診査受診率	%	95.5						97.0
できたこと(達成したこと)	1歳8か月児健康診査と3歳6か月児健康診査の受診率が上昇した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	4か月児健康診査と3歳6か月児健康診査の受診率が目標値に届かなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	- 概ね高い受診率を保つことができています。 - 引き続き、健診内容の質的充実及び支援が必要な市民が相談に繋がるよう努める必要がある。 - 乳幼児健康診査で紹介状が発行されたにもかかわらず、医療に繋がっていない児がいる。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	- 引き続き保護者の育児不安の解消や虐待を未然に防ぐための支援に努める。 - 紹介状発行児が医療につながるよう受診勧奨を行い、疾病の早期発見・治療の支援に努める。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇こどもの健康保持・増進																	
		①こどもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応																	
担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1202			事業名		歯科疾患予防												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	歯科疾患予防を図るため、幼児に対する口腔内検査、予防処置、保健指導、むし歯のなりやすさ検査等を実施します。また、幼児期の発育・発達に応じた口腔保健に関する知識の普及を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
			○																

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
2歳3か月児歯科健康診査受診率	%	74.7						81.5
2歳5か月児歯科健康診査受診率	%	76.1						83.0
できたこと(達成したこと)	乳幼児期の発育発達に応じた齲歯予防や歯みがき習慣、噛むことの大切さなど、口腔機能に関する知識の普及に努めることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	2歳3か月児歯科健康診査、2歳5か月児歯科健康診査ともに目標値を下回った。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		市民自らがかかりつけ歯科医でセルフケアをしているため市の健診には来庁しない可能性もあり、目標値に届かず受診率が低いと言い切っているのか判断が難しい。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	乳幼児期からの歯科疾患予防に関する知識の普及とともに、歯科健診の必要性について周知、啓発に努める。

計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇こどもの健康保持・増進																	
		①こどもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応																	
担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1203			事業名		二次健康診査(経過観察健診)												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	一次健康診査等で発見された問題について、適切な事後指導を行うため、経過観察や相談等を実施します。 また、関係機関と連携を図りながら、医療機関や療育機関等を紹介する等、フォローアップを実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
													○						

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
受診人数(小児)	延べ人数	249						質的充実
受診人数(心理相談)	延べ人数	138						質的充実
できたこと(達成したこと)	発育・発達及び疾病の二次スクリーニングとして、治療や療育等の必要性を早期に示すことができている。また、栄養や生活習慣等必要に応じた相談・情報提供等の支援もできた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	引き続き質的充実を図る必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	継続して取り組む。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策															
施策の方向		◇こどもの健康保持・増進															
		①こどもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応															
担当課		子育て支援課															
実施事業	事業No.	1204				事業名				予防接種							
	SDGs																
				○													
	事業内容	感染の恐れがある疾病の発生及びまん延を予防するため、予防接種を実施します。(長期療養を含む)									ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる
											妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期			
												○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
接種率(MR第2期)	%	89.2						95.0
できたこと(達成したこと)	対象者へ個別の通知による接種勧奨を実施した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	目標達成に至っていない。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	全国的なMRワクチンの供給不足により、年度内に接種できなかった方が発生したことから、接種率が目標を下回った。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後も対象者への個別勧奨等により、事業周知に努め、接種率の向上を図る。

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇こどもの健康保持・増進 ①こどもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

担当課		医療政策課																	
実施事業	事業No.	1205			事業名		小児救急医療体制の確保												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	小児初期救急の広域化に伴い、3市1町(本市、高槻市、摂津市、島本町)で高槻島本夜間休日応急診療所の小児科を共同運営します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
													○	○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
小児初期救急医療機関設置の有無	—	有						有
できたこと(達成したこと)	引き続き、高槻・島本夜間休日応急診療所の管理運営費を負担することで、小児救急医療体制の確保を図った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) —:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	小児科医等の医療従事者の確保が難しい状況のなか、3市1町(本市、高槻市、摂津市、島本町)での広域化対応の実施により、安全・安心な小児初期救急医療体制を確保することができている。今後も、引き続き、体制の継続的な確保を図る必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、3市1町(本市、高槻市、摂津市、島本町)で小児初期救急の広域運営を実施し、小児救急医療体制の安定的な確保に努める。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策															
施策の方向		◇こどもの健康保持・増進															
		②食育の推進															
担当課		子育て支援課															
実施事業	事業No.	1206				事業名		栄養相談									
	SDGs																
				○													
	事業内容	乳幼児期の食事と栄養等について正しい知識の普及を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたい
													○				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
4か月児健康診査における栄養相談	人	138						質的充実
1歳8か月児健康診査における栄養相談	人	270						質的充実
3歳6か月児健康診査における栄養相談	人	128						質的充実
できたこと(達成したこと)	問診や保健相談時に栄養相談の希望の有無を保護者へ確認し、希望者が相談できるように調整した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	全ての健診において、栄養相談の実施数が増加したため。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き相談しやすい環境を整える。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇こどもの健康保持・増進 ②食育の推進

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1207			事業名		離乳食・幼児食講習会												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	乳幼児をもつ保護者に対し、離乳期や幼児期における食事の進め方、調理方法、味付け等の講習を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
	妊娠・出産期											就学前期	小・中学校期	青年・若者期					
												○							

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
ごっくんクラス参加者数	組数	369						420
かみかみクラス参加者数	組数	181						210
ぱくぱくクラス参加者数	組数	79						110
できたこと(達成したこと)	毎月全ての講習会予約で定員に達し、参加者にも好評であった。かみかみクラス・ぱくぱくクラスで一時保育を実施し、参加しやすくなるよう工夫した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	キャンセル待ちが発生する月もあり、希望者全員に受講してもらえなかった。冬期はキャンセルも多く、定員割れすることもあった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	一時保育は開催1週間前に締め切っているため、キャンセル待ちの市民には利用しにくい。
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	市民ニーズの高いかみかみクラスを増設し、引き続き多くの方に講座を受講してもらえるようにする。
継続		

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇こどもの健康保持・増進 ②食育の推進

担当課		保育幼稚園総務課																	
実施事業	事業No.	1208			事業名		幼稚園・保育所における食育												
	SDGs																		
		○		○															
	事業内容	こどもや保護者と接する職員の食育に対する知識の向上を図り、食指導や取組の紹介等により、こどもや保護者の食に対する関心を育てます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 思える環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
												○							

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
食育研修の実施	回	0						1
できたこと(達成したこと)	公立施設において、菜園活動やクッキング活動などの施設内での取り組みを通じて、こどもの食に対する興味や関心を育てることができた。また、栄養士による講演等の場を設ける事で、こどもや保護者へ食の大切さを直接呼びかけることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	公立施設のみの取組となっている。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B	公立施設ではさまざまな取組を実施し、こどもの食に対する興味関心を育てることができたが、私立施設も含めた取組を検討する必要がある。	

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和7年度から食育研修を実施し、食育の取組を私立施設へも拡充していく。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

担当課		保育幼稚園総務課																	
実施事業	事業No.	1209			事業名		「個」を大切にする教育・保育												
	SDGs																		
						○	○												
	事業内容	職員の知識の習得や自己啓発に努め、子ども一人ひとりの人権を大切にしたい教育・保育を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたい
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
												○							

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
人権研修の実施	回	5						5
できたこと(達成したこと)	研修内容を検討し、社会の変化に対応した研修を実施するとともに、実践事例の発表や活発な意見交流を通して職員の知識の習得・技能の向上につながり、子ども一人ひとりの人権を大切にしたい教育・保育の推進に寄与することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	研修の内容が同じ内容に偏らないよう、研修内容を精査する必要がある。また、研修で学んだ一人ひとりを大切にしたい教育・保育を行うことが、日常の教育・保育につながることを職員が認識する必要がある。
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	研修の内容について検討し、教育・保育の質の向上につなげていく。また、研修で学んだ一人ひとりを大切にしたい教育・保育を行うことが、日常の教育・保育につながることを職員が認識するように工夫していく。
継続		

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

担当課		保育幼稚園総務課																		
実施事業	事業No.	1210			事業名		公立保育所の機能と役割													
	SDGs																			
						○														
	事業内容	地域の子育て家庭支援の充実や、圏域の5ブロックでの拠点として、教育・保育施設等の交流や連携を図ります。また、小規模保育事業所等との連携を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境	
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期					
													○							

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
ともだち広場(園庭開放)	件	213						240
できたこと(達成したこと)	園庭開放により、こどもや保護者の居場所づくりに努め、子育て支援を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	5ブロックの拠点として交流や連携を図るための事業(拠点事業)を実施したが、参加に至らない小規模保育事業所等がある。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	拠点事業に参加しない小規模保育事業所等とも連携をとっていく必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	園庭開放時に子育てに関する相談が多いことから、引き続き園庭開放を実施する。また、拠点事業に参加していない小規模保育事業所等については、個別に交流する機会を設けるなど連携を図る。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇就学前教育・保育体制の充実																	
担当課		保育幼稚園総務課																	
実施事業	事業No.	1211			事業名		認定こども園の普及												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	保育の提供体制の充実を見据え、保育所・幼稚園の特長をあわせ持つ認定こども園の普及を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
													○						

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
認定こども園化数	園	2						4
できたこと(達成したこと)	公立幼稚園、私立保育所の2施設が認定こども園へ移行することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	待機児童対策の側面では、幼稚園から認定こども園への移行が重要となるが、事業者の意向によるところが大きい。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、事業者の意向を踏まえつつ、認定こども園の普及に努める。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

担当課		保育幼稚園総務課、学校教育推進課																	
実施事業	事業No.	1212			事業名		小・中学校への円滑な移行のための保・幼・小・中の連携												
	SDGs																		
						○						○							
	事業内容												ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる
妊娠・ 出産期													就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
													○	○					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
保幼小接続の研修	回	2						1
学びのシンポジウム全体会参加者人数	人	120						160
できたこと(達成したこと)	定期的に会議を開き交流することで、保幼小中の中で情報共有ができ、接続期におけるこどもの理解や対応を進めることができた。(保育幼稚園総務課) 新たに保幼小接続の合同研修を開催することができた。(学校教育推進課)							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題
A	保幼小中連携を担当者だけでなく、全職員が関わりをもてるようにしていく必要がある。(保育幼稚園総務課) 第5次教育計画 茨木っ子プラン ネクスト5.0の最終年度であり、5年間の総括的なテーマについて、管理職だけでなく、担当教員も含め広く参加をしてもらうことができた。次年度も、参加しやすい日程の設定を早めに行い、事前周知に努めたい。(学校教育推進課)

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか
継続	引き続き、交流の場を設定し情報共有を図るとともに、全職員が接続期を意識できるように研修等を実施していく。(保育幼稚園総務課) 保幼小接続の合同研修会を各校区でも実施できるように推進を図る。(学校教育推進課)

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

担当課		保育幼稚園総務課																	
実施事業	事業No.	1213			事業名		保育の提供体制の充実												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	保育士確保のための支援を充実させ、定員の弾力化及び施設整備による保育所等の定員増等により、待機児童を解消するとともに、教育・保育の質の向上を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
												○							

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
待機児童数	人	24	11					0
できたこと(達成したこと)	保育士確保支援策として奨学金返済支援事業の内容の拡充を行うとともに、保育を必要とするこどもの受入れ確保に向けた受入体制を整備することで、こどもの受入れを拡充できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	認定こども園の創設、幼稚園の認定こども園化等、保育を必要とするこどもの受入れ確保に努めたが、待機児童数が24人となった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
C	取組における課題	保育士の確保が課題となっており、既存施設の定員弾力化等の定員増が困難である。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き保育士確保支援を行い、定員の弾力化、幼稚園の認定こども園化及び改修工事を伴う定員増により、待機児童を解消するとともに、教育・保育の質の向上を図る。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇就学前教育・保育体制の充実																	
担当課		保育幼稚園事業課																	
実施事業	事業No.	1214			事業名		一時預かり事業(幼稚園型)												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	保護者の希望によって、通常の教育時間を超えて行う預かり保育を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
													○						

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
延べ利用人数	人	110,941						120,169
できたこと(達成したこと)	保護者のニーズに合わせて預かり保育の案内をできた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	制度理解のため、入園手続き時や相談時に預かり保育の制度を案内する必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き入園手続き時や相談時に預かり保育の制度を案内する。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

担当課		保育幼稚園事業課																	
実施事業	事業No.	1215			事業名		時間外保育(延長保育)												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	通常の保育時間を超えて保育を実施する延長保育を実施します。 また、保護者の就労形態の多様化に合わせて事業の充実を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 持てる環境
	妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期								○							

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
実施か所数	か所	82						87
できたこと(達成したこと)	保護者の就労形態が多様化している中で、概ね保育ニーズに対応できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	B	取組における課題	入園希望者に対して延長保育事業の制度をわかりやすく案内する必要がある。

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後も延長保育のニーズを把握し、延長保育の充実について検討する。
継続		

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

担当課		保育幼稚園事業課																	
実施事業	事業No.	1216			事業名		休日保育												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	認定こども園での休日保育及び企業主導型保育事業所を休日に利用した場合に利用料の一部を補助する「休日保育事業利用料補助事業」の周知を継続的に行い、休日でも安心して預けられる保育環境の充実を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 思える環境 育てたい
											妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期					
												○							

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
休日保育利用延べ人数	人	402						400
休日保育事業利用料補助事業利用延べ人数	人	139						200
できたこと(達成したこと)	休日保育のニーズに概ね対応できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	事業実施施設の増加はできなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	休日保育の予約や利用方法の検討及び北ブロックにしか施設がないため、事業実施施設の増加を検討する必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
量的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	現在の実施施設に対しニーズを聞き取り、事業実施施設の増加を検討する。また、「休日保育事業利用料補助事業」の補助内容を周知を継続的に行う。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

担当課		保育幼稚園総務課																	
実施事業	事業No.	1217			事業名		保育所・幼稚園職員の研修												
	SDGs																		
						○	○												
	事業内容	保育所・幼稚園において、社会ニーズや実態に即した研修を企画及び実施し、職員の知識・技能の向上を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
												○							

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
障害児保育研修	回	4						4
栄養士・看護師研修	回	3						3
保幼連携研修	回	2						2
できたこと(達成したこと)	専門的な知識を習得するとともに保育所と幼稚園の職員交流を図ることができた。また、養育者との間に愛着が形成されず、さまざまな問題行動につながるようなこどもが増えていることもあり、乳幼児期の愛着形成が、自己肯定感、対人関係、社会性にいかに影響があるかについて学ぶことができ、こどもとの関わり方についての知識の向上を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	研修内容が偏らないよう、研修内容を精査していく必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き研修を実施し、職員の知識・技能の向上を図る。

計画

施策の展開		ライフステージごとの施策															
施策の方向		◇子育て支援サービスの充実															
		①相談支援・情報提供															
担当課		子育て支援課															
実施事業	事業No.	1218				事業名		子育てに関する相談									
	SDGs																
				○													
	事業内容	子育てや発達などについて、電話・面接・メールによる相談を実施し、相談内容に応じ、子育ての負担感の軽減を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		こどもをもち育てたいと思える環境
													○	○	○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
相談件数	件	782						—
できたこと(達成したこと)	相談者の不安や負担感に寄り添った対応を行うことができた。また、相談内容に応じて適切な専門機関に繋ぐことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) —:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		ホームページやSNS等により相談先の周知を行い、市民の認知度の向上に努めるとともに、関係機関との連携を深め支援内容を充実していく必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き様々な媒体で周知を行うとともに、多様な相談内容に適切に対応できるよう関係機関との連携を密に実施する。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ①相談支援・情報提供

担当課		子育て支援課、保育幼稚園総務課																	
実施事業	事業No.	1219			事業名		子育てに関する情報発信及び利用者支援												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	利用者が欲しい情報をタイムリーに入手できるよう、子育てハンドブックの配布や乳児家庭全戸訪問や乳幼児健康診査等における相談の機会を提供するほか、SNS等、多様な媒体を通して、子育て支援サービス情報の周知を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
												○	○	○					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
子育てハンドブック発行数	部	14,200						14,200
できたこと(達成したこと)	乳幼児健康診査(4か月健診)での相談ブースやイベントでの情報コーディネーターの配置が本格的に始動し、相談件数が増えた。また随時相談窓口担当を配置することで相談者に迅速に対応できるようになった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	引き続きハンドブックだけでなくSNSによる情報発信も促進する。

これからの取組

今後の方向性		
質的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後も電話、メール、面談などニーズに寄り添った方法で相談を行い気軽に、そして身近な場所で相談できる体制の整備に努めていく。 地域子育て支援拠点への巡回数を増やして連携を深めていく。

計画

施策の展開		ライフステージごとの施策															
施策の方向		◇子育て支援サービスの充実															
		①相談支援・情報提供															
担当課		子育て支援課															
実施事業	事業No.	1220				事業名				こども支援センター各種講座							
	SDGs																
				○													
	事業内容	子育てに対する不安の解消や親子のふれ合いを深めることを目的として、就学前児童の保護者を対象に子育てに関するさまざまな講座を開催します。									ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる
											妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期			こどもをもち育てたいと思える環境
												○					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
実施回数	回	142						120
できたこと(達成したこと)	おにクル2階にある子育てフリースペース「わっくる」で、保健師・栄養士等の専門職による相談や、親子でのふれあいイベントを実施することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A		
		こども支援センターでのイベントは前年度より充実させることができた。が、その一方で、わっくるまで来所が難しい市民に対しても、同内容を届けられる仕組みが必要である。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き市民のニーズを集計し、講座等を実施していく。

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1221			事業名		乳児家庭全戸訪問及び4～12か月児親子交流												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	生後2か月前後から4か月の赤ちゃんのいる家庭を全戸訪問し、保護者の相談に応じるとともに、子育てに必要な情報を知らせ、必要に応じて、関係機関につなげます。また、「あかちゃんあそぼ」を開催することで、赤ちゃんとのふれあい遊びを楽しんでもらったり、保護者同士の交流の場を設けます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたい

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
乳幼児家庭全戸訪問率	%	97.2						100.0
できたこと(達成したこと)	訪問家庭数は利用者支援・保健グループ・相談グループの連携のある家庭を除き訪問を完了した。 会えなかった場合も、4か月健診などで他機関での現認を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A	茨木市に生まれた赤ちゃんの家庭を全戸訪問をし、赤ちゃんの現認と妊婦支援給付を兼ねているので、出来るだけその月内での訪問完了に努めた。 あかちゃんあそぼは4か所で実施する予定だが、地域によっては、申し込みが少ないところもあるので、SNSやチラシなどで周知する。	

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	里帰り等、自宅にいない場合でもオンラインの訪問を実施し、母子の現認をしていく。 会えなかった場合でも、必ず連絡をして、訪問を実施する。会えない事情がある場合は利用者支援・保健グループと連携する。 あかちゃんあそぼは実施する4か所以外にわっくるでのあかちゃんの日で、親子の交流を図る。

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1222			事業名		養育支援家庭訪問												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	養育上支援が必要な家庭に対し、支援担当員に加え、保育士や保健師等の専門職が家庭を訪問し、養育に関する助言等を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
												○	○	○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
訪問世帯数	世帯	5						10
できたこと(達成したこと)	育児負担等を抱える保護者の相談を受けたり、養育に関する助言を行うことにより、子育ての負担軽減を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	家庭訪問等の受け入れに抵抗感があり、継続的な訪問支援の利用に繋がらないケースがあった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	家庭訪問する支援担当員の養育知識や技術の維持・向上に努める必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、支援担当員の養育知識や技術の維持・向上のため、毎年、研修計画を立て実施していく。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1223			事業名		地域子育て支援拠点の整備・運営支援												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	就学前の子どもとその保護者が身近な地域で気軽に集い安心して遊んだり相談できるつどいの広場を概ね小学校区毎に設置し、より身近な地域で安心して子育てができるよう、つどいの広場の新規設置を進めます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
											○	○							

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
利用者数	人	101,410						118,220
できたこと(達成したこと)	中条小学校区と白川小学校区に新たにつどいの広場を設置し、より身近な地域で安心して子育てができる環境を整備した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	実施場所の選定が困難なことから安威・清溪・忍頂寺小学校区に設置ができなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	安威・清溪・忍頂寺小学校区は、空き店舗や貸家等の物件数が少ないこともあり、新耐震基準等の実施場所要件を満たした場所を探し出すことが、非常に困難であり、設置方法などについて検討が必要である。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	安威・清溪・忍頂寺小学校区での実施場所を探しつつ、安威小学校区を中心として、赤ちゃんと保護者のふれあい遊びの場である「あかちゃんあそび」の実施や公民館等の公共施設を利用した出張ひろばの検討をするなど、引き続き支援を検討・継続する。

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1224			事業名		子育て短期支援(ショートステイ・トワイライトステイ)												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	保護者の病気や出産、育児疲れなどでこどもの養育が一時的にできない家庭や保護者の仕事などが夜間にわたる家庭などに対し、児童養護施設等と連携し、預かり等の対応をします。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
													○	○	○				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
ショートステイ延べ利用日数	日	20						95
トワイライトステイ延べ利用日数	日	0						20
できたこと(達成したこと)	個々の状況に応じ、こどもの一時預かりを実施し、保護者の負担軽減を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	引き続き、保護者の負担軽減を図られるよう一時預かりを継続する。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	ニーズにあった支援を提供できるよう、施設の受け入れ環境の整備に努める必要がある。
B		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	施設の受け入れ状況に関する情報連携を密にし、個々のニーズに寄り添った支援に努める。
継続		

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

担当課		子育て支援課																		
実施事業	事業No.	1225			事業名		ファミリー・サポート・センター													
	SDGs																			
				○																
	事業内容	地域で育児の手助けをしてほしい依頼会員と手助けをする援助会員の相互援助活動による子育てを支援します。また、経済的に不安を抱えるひとり親世帯に対し助成を行います。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
													○	○						

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
活動件数	件	2,610						4,310
できたこと(達成したこと)	支援を必要とする会員に対し、相互援助活動を行うことができた。活動機会のない、または普段こどもと接する機会のない援助会員への機会提供として、ファミサポ体験会inわっくるを実施した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	依頼会員数は毎年同程度であるが、援助会員数が減少傾向にある。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A	援助会員数は減少傾向にあるものの、支援を必要とする会員の方への支援を行えた。ファミサポ体験会inわっくるの実施では、活動機会のない、または普段こどもと接する機会のない援助会員への機会提供を行い、活動への不安解消につながった。	

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	援助会員の増加を図るとともに、活動していない会員が活動につなげていけるよう、依頼内容の精査工夫を行い、活動の活性化を図る。

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1226			事業名		出前型一時保育												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	子育て世代が、講演やイベント、審議会等に参加できるように保育士を派遣する等して、一時的にこどもを預かります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
													○						

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
派遣件数	件	110						
派遣人数	人	254						
できたこと(達成したこと)	利用要件を満たす派遣依頼についてすべて対応した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	子育て世代の社会参加をより充実させていくため、出前型一時保育事業の周知を図り、特ににおにクルイバント保育について、利用登録団体や利用者数の増加につなげる。
A		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	子育て世代の社会参加促進に向けて今後も事業を実施していく。
継続		

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

担当課		子育て支援課、保育幼稚園事業課																		
実施事業	事業No.	1227			事業名		一時預かり事業(一般型)													
	SDGs																			
				○																
	事業内容	保護者のリフレッシュや外出、病気など、家庭でのこどもの保育が困難な場合に、一時的にこどもを預かります。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
			妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期														
													○							

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
延べ利用者数(子育て支援課)	人	16,946						13,442
延べ利用者数(保育幼稚園事業課)	人	2,014						2,100
できたこと(達成したこと)	一時保育室スマイルの当日予約枠利用の周知を図り、利用増になった。また、就労での利用を要件に加えたことも利用増につながった。(子育て支援課) 保育園や幼稚園等に在籍していない児童について、家庭での保育が難しい場合における預かりの場としての役割を果たすことができた。(保育幼稚園事業課)							
できなかったこと(達成できなかったこと)	おにクルイベント枠の確保と事前予約(通常利用枠)への流用のタイミング、早期に見極め予約できる環境を提供できるようにすることが難しかった(子育て支援課) 特になし(保育幼稚園事業課)							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	おにクル移転したことが利用増の主な要因であるが、要件に就労を加えたことも利用増加につながった。一時保育とおにクルイベント枠の併用について、スムーズな運用を検討していく必要がある。(子育て支援課) 一時預かり事業の制度を周知するとともに、利用を希望する保護者に分かりやすく説明をする必要がある。(保育幼稚園事業課)

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	イベント保育の需要について注視しながら、引き続き、安定的な一時保育の提供を行う。(子育て支援課) 市民ニーズによりの確に対応するため、民間事業所への委託や制度の周知等を行っていく。(保育幼稚園事業課)

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇子育て支援サービスの充実																	
		②地域子ども・子育て支援事業の充実																	
担当課		保育幼稚園事業課																	
実施事業	事業No.	1228			事業名		病児・病後児保育												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	現在の病児対応型事業者との協議を行い、受入の促進を行うとともに、令和7年度(2025年度)中に新規事業者を確保できるよう調整を進めます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
														○	○				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
病児対応型 延べ利用人数	人	298						770
病後児対応型 延べ利用人数	人	59						125
体調不良児対応型 施設数	施設	52						42
訪問型事業補助 延べ利用人数	人	60						80
できたこと(達成したこと)	病児対応型について、周知のため、案内チラシの作成及び各保育施設での掲示依頼をおこなった。また、保育施設の利用者に対し、コドモンや私立施設に対する周知メール等も活用したこともあり、昨年度と比較し、利用人数が2倍以上となった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	病児対応型について、目標とした人数を達成することができなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		病児対応型において、市民ニーズに対応できるよう、症状による利用制限の緩和(※)及び病児対応型事業者の増を図る必要がある。 (※)症状による利用制限 ・発熱時の利用にあたっては、事前にPCR検査を受診しても、当日PCR検査の受診が必須 ・新型コロナウイルス感染症の受入制限

■これからの取組

今後の方向性		
量的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	現在の病児対応型事業者との協議を行い、受入の促進を行うとともに、新規事業者を確保できるよう調整を進める。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策															
施策の方向		◇子育て支援サービスの充実															
		②地域子ども・子育て支援事業の充実															
担当課		子育て支援課															
実施事業	事業No.	1229				事業名		親子関係形成支援									
	SDGs																
				○													
	事業内容	子育てに悩みや不安を抱える保護者等が、こどもの発達に応じた情報や関わり方を学ぶとともに、保護者同士が交流できる場を提供します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		こどもをもち育てたいと思える環境
													○	○	○		

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
参加者数	人	52						47
できたこと(達成したこと)	年間4回開催し、参加希望のある保護者に対してプログラムを提供できた。 参加者のニーズに応じた情報を提供することで学びに繋がった。 安心した環境を整えることで、仲間意識ができアフターグループが形成され孤立化を防げた							
できなかったこと(達成できなかったこと)	参加希望のあった人全員に対してプログラムを提供できなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択		A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)															
評価	B	取組における課題	参加希望者が全員が受講できる環境を整備する必要がある。														

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和7度内に案内役のファシリテーターの育成を充実させる。 令和8年度にはプログラムの募集人数の拡大及び、開催場所を市内数か所増やし募集人数を増やす。
量的充実		

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇地域ぐるみの子育て支援

担当課		中央図書館																	
実施事業	事業No.	1230			事業名		こどもの読書活動推進												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	こどもが読書に親しめるよう、読書環境の整備を図ります。ブックスタートの取組、おはなし会など、さまざまな行事を実施することでこどもの読書推進への理解や関心の普及・啓発を促します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
												○	○	○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
全出生数に対するブックスタートの絵本の配布率	%	98.4						100.0
おはなし会開催回数と参加者数	回/人	286/14,138						350/16,000
こどもの読書推進のための講座開催回数と参加者数	回/人	4/152						6/200
できたこと(達成したこと)	ブックスタートでは、対象児のほとんどに絵本を配布することができた。おはなし会は派遣先での実施回数が増えたことにより、参加人数が増加した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	こどもの読書推進のための講座は新しい講座を実施することができなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	私立保育園などへのおはなし会開催が定着し、より多くのこどもたちが絵本やものがたりに触れる機会を増やすことができている。しかしながら、講座の内容及び対象に応じた周知方法については、より良い効果が得られるよう一層の工夫が必要である。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ブックスタートにおいては、会場でブックスタートに関する案内説明を十分にできるように努める。おはなし会については、年度当初の校長会や園長会で周知を行い、充実を図る。こどもの読書推進のための講座については、今年度の開催時にアンケートを取り、利用者のニーズに応じた講座開催に努めるとともに、講座の周知方法について検討する。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																		
施策の方向		◇地域ぐるみの子育て支援																		
担当課		こども政策課、地域福祉課																		
実施事業	事業No.	1231			事業名		世代間交流													
	SDGs																			
				○																
	事業内容	高齢者とこども世代が交流し、お互いの大切さを知る機会を提供できるよう勉強会や囲碁・将棋の指導、絵本の読み聞かせ等のさまざまな体験学習を実施します。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 持ち育て たい環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
													○	○	○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
実施回数	回	162						220
参加人数	人	2,918						5000
できたこと(達成したこと)	多世代交流センターでの世代間交流事業において、高齢者がこどもに教える講座だけではなく、高齢者とこどもと一緒に取り組むことができる講座など多岐にわたった内容を実施したことで、R5年と比較して参加人数が132人増加し、世代間交流を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	参加人数が少ない講座があったことや、一部の施設において事業の実施回数が基準を満たしていなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		多様な講座等を多数実施することで、幅広いニーズに対応した世代間交流の機会を創出できることから、事業実施の基準を超える回数の事業を実施する必要がある。 また、施設により高齢者とこどもの利用者数に偏りがあることから、全施設において高齢者とこどものいずれにも利用してもらえるよう、魅力ある事業の実施や、周知活動をする必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	全施設において、基準を満たす事業実施ができているかの確認に加え、実施状況にあわせて仕様の回数を増やすなど、定期的に見直しを行う。 また、施設の周知により利用者数を増やし、事業の参加人数増加を図る工夫を行うことで、令和11年度までに、世代間交流事業の参加人数を5,000人にする。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇地域ぐるみの子育て支援

担当課		人権・男女共生課																	
実施事業	事業No.	1232			事業名		ローズWAM親子交流												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	保護者が男女共同参画の子育てを学び、就学前児童と保護者がリズム遊びや手遊び等で楽しく遊ぶ機会を提供します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
													○						

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
講座等に参加した親子等の人数	組	11						20
できたこと(達成したこと)	男性保護者同士の座談会と親子の触れ合いの2部構成。男性の子育ての悩みを共有できる機会となった。夏・冬の2回開催。冬はリピーターを含めて定員を超える応募があった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	冬はこどもの体調不良によるキャンセルが相次いだ。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	受講希望者が受講できるよう、開催方法や開催回数の検討が必要である。
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き保護者に対する男女共同参画的な視点での子育てについての学びの機会を提供していく。
継続		

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇地域ぐるみの子育て支援																	
担当課		歴史文化財課																	
実施事業	事業No.	1233			事業名		こども向け文化財普及啓発活動												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	こども向けの展示や体験学習、イベントの実施に積極的に取り組み、こどもが本市の歴史・文化財に興味を持つ機会の提供を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
													○	○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
夏休み体験学習講座参加者数	人	60						60
展示等におけるこども向け企画開催回数	回	4						3
出前授業等の参加者数	人	1,619						2,000
できたこと(達成したこと)	令和6年度は文化財資料館開館40周年を記念して、各種周年事業を実施した。その一環として、夏休み体験学習講座は実施回数を増やしたことから例年より大幅に参加者が増加した。来館記念品にカプセルトイを導入し子どもにも好評であった。また、各展示ごとに子ども向けクイズラリーも実施することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	学校への出前授業や文化財資料館への団体見学などは、文化財資料館の体制や学校側の環境などクリアすべき条件も多く、参加者数が伸び悩んでいる。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	学校が利用しやすい出前授業は、対応する人員の確保や準備に課題がある。また、文化財資料館への団体見学は、当館の受入態勢だけでなく、学校として授業時間数や距離・交通等の懸念があるため、近隣校以外の来館が困難であることが課題である。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	学校への出前授業及び文化財資料館への団体見学について、より多くのこどもたちが参加できるよう実施方法・時期などの改善に継続的に取り組む。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策															
施策の方向		◇地域ぐるみの子育て支援															
担当課		こども政策課															
実施事業	事業No.	1234			事業名		子ども・若者支援地域協議会										
	SDGs																
		○		○													
	事業内容	子ども・若者支援地域協議会に参画するさまざまな支援機関・団体との支援連携を強化し、社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子ども・若者の早期支援、早期困難の解消をめざします。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	社会全体で支援できる	子どもをもち育てたい
												○	○	○	○		

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
子ども・若者支援地域協議会の部会等の開催数	回	20						22
できたこと(達成したこと)	社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者に対し、各々の専門性を有する支援機関が必要に応じて連携し包括的に支援した。また、外部の専門家を招き、協議会のあり方や支援のあり方、研修体制について意見交換した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	連携が必要な高等学校や団体等に協議会に新規加入してもらうこと。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	協議会への加入団体を増やし、より幅広い団体と円滑な連携を図ること。また、より効果的な連携や支援者のスキルアップが求められている。
B		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	協議会の加入団体を増やす。また、外部の専門家を講師に招き、研修会の実施回数を増やすことで、関係機関の支援力向上や支援連携強化を図る。
継続		

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

担当課		健康づくり課																	
実施事業	事業No.	1301			事業名		食事の栄養バランス診断講習会												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	児童・生徒等を対象に食事の栄養バランスに配慮した食生活の実践のための講習会を実施します。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
														○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
学校版SAT出前講座実施場所	か所	4						6
できたこと(達成したこと)	出前講座の申込があった小中学校はすべて実施できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	食事バランスSATシステムを使用した出前講座についての周知・啓発が十分ではなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	小中学校にてSATシステムを使用した出前講座が可能であることの周知が不十分であることが課題である。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	茨木市食育推進ネットワーク会議等に参加している栄養教諭等へ、SATシステム出前講座の紹介に取り組む。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

担当課		健康づくり課																	
実施事業	事業No.	1302			事業名		こども(食育)クッキング												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	こどもが食の大切さを学び、望ましい食習慣を身につけられるよう講習会を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 持てる環境 と 育てたい
											妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
開催回数	回	4						4
できたこと(達成したこと)	目標の実施回数を達成した。 また、参加者へのアンケートを実施した際、「これから(も)、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、朝食・夕食で食べようと思いますか?」の項目で、「思う」に回答した人の割合が97.2%であった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B	夏季休業期間等を実施時期にしていたが、いずれも土曜日開催のため実施する時期が適切であるかが課題である。 また、参加者のアンケートより、「朝ごはんのときに野菜を食べる」に回答した人の割合が62.9%であったことから、朝食の質向上に対する取組が必要である。	

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	実施時期が適切であるかを検討に加えて、参加者自身が食事を準備ができるきっかけづくりに取り組む。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	1303			事業名		健康管理への支援												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	小・中学生自らが心身の健康管理ができるよう、健康づくりや生命の大切さ、十代の性に関する正しい知識の普及を支援します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
											妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
出前講座の実施回数	回	4						増やす
出前講座の受講人数	人	304						増やす
できたこと(達成したこと)	思春期のこころとからだをテーマに学校での出前講座を実施した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	小学校からの依頼のみで、中学校からの依頼がなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	出前講座の依頼がある学校が限られている。 学校で指導した内容が定着するよう、養護教諭等と連携して継続した取り組みになることを目指したい。
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	出前講座を実施する学校が増えるよう、実施内容を説明する機会を設けたり周知方法を工夫する。
継続		

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

担当課		人権・男女共生課																	
実施事業	事業No.	1304			事業名		デートDV防止啓発												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	デートDV予防啓発冊子を市内中学校等に配布し、暴力によらない問題解決能力を身につける教育を推進します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
											妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
実施回数	回	4						5
できたこと(達成したこと)	実施回数が増加した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	実施回数が増加したものの目標には達しなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	実施回数の増加を図るための学校現場への周知と理解促進に取り組む必要性がある。ワークショップ実施主体の民間団体の人材確保と人材育成の必要性がある。
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	実施回数を増加し、より多くの学生・生徒に参加してもらうとともに実施回数の増加に対応できる実施主体の育成に取り組む必要性がある。
量的・質的充実		

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育の推進

担当課		学校教育推進課																
実施事業	事業No.	1305			事業名		学力向上											
	SDGs																	
						○						○						
	事業内容	学力向上の取組について、各校の進捗状況を把握するとともに、効果のある取組を行っているかどうか、検証を行い、第6次プランの取組につなげます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる
	妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期														
			○															

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
全国学力・学習状況調査の正答率(小学生)		1.028						1.0以上
全国学力・学習状況調査の正答率(中学生)		1.069						1.0以上
学力低位層の率(小学生)		0.870						1.0以下
学力低位層の率(中学生)		0.852						1.0以下
できたこと(達成したこと)	学力向上担当者会やスクールエンパワメント推進校による学校公開などをとおして、学力向上に関する各校の効果的な取組み発信や共有ができた。また、学習者主体の授業改善をテーマに各校で学力向上に取り組んだ。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	学力低位層の割合の大きな改善が見られなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	市全体の傾向を引き続き確認しながら、特に学力低位層の児童生徒の割合は増加することがないよう、学習の定着が厳しい子どもたち一人ひとりに意識を向け、つまづきを早期に発見するとともに、個に応じた指導・支援を充実させていく必要がある。
B		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	授業改善に係るプロジェクトチームを発足し、大阪府スクール・エンパワメント推進事業各モデル校や授業改善推進校等による実践報告や公開授業、単元計画を共有し、市域へ発信・普及を行う。特に、毎年2月にある学力向上担当者会では、各モデル校によるポスターセッションにより実践報告を行い、参加者がより各校の実践を深く知る機会を持ち、各校での実践のブラッシュアップにつなげる。
継続		

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																		
施策の方向		◇「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育の推進																		
担当課		学校教育推進課																		
実施事業	事業No.	1306			事業名		体力向上													
	SDGs																			
				○	○															
	事業内容	教員や子どもたちが目標を学習する前に意識し、性別や障害の有無に関わらず、誰もが輝ける場面を模索しながら、体力向上を図ります。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
														○						

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
体力テストの合計点(小学生)	%	52.55						54.7
体力テストの合計点(中学生)	%	42.91						45.0
「運動スポーツが好き」と回答する割合(小学生)	%	87.25						90.1
「運動スポーツが好き」と回答する割合(中学生)	%	81.3						85.1
できたこと(達成したこと)	全国との開きはあるものの、課題として設定した「長座体前屈」「ボール投げ」については、課題意識を持って体育学習を進めることで、少しずつ成長している。「反復横跳び」で測ることのできる敏捷性についても向上している。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	筋力、握力がともに課題となっている。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	体育の授業が好きなどの質問項目や、体力測定結果の開きが学校間であること。 体力テストの結果から、柔軟性、握力がともに課題となっている。
B		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	教員や子どもたちが目標を学習する前に意識し、誰(性別、障がいを持つ持たないに関わらず)もが輝ける場面を模索しながら、体力向上を今後もはかるために、1年間のサイクルでは、5月に担当者を行う中ことで、市全体で目標設定を行い、各校区での課題を確認し計画を立てる。11月、2月と取り組みの振り返りや、研修をとおりて、共生体育を進めていく。体育の苦手な子どもたちも、得意な子どもたちも生涯スポーツとして体を動かすことを楽しもうとする素地を養うために、ルールの変更調整など、どの子どもも輝ける取り組みを実践報告として行う。長期計画としては、課題となっている筋力、握力について短時間学習を各校で取り入れられるように、大阪府作成動画や、先生方の取組みを紹介する中で教職員が子どもたちにできる手立てを増やし、子どもたちに返していくことのできる場の設定を進めていく。(研究授業を除く授業見学等)
継続		

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育の推進

担当課		施設課																	
実施事業	事業No.	1307			事業名		学校施設の整備												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	快適な学習環境を整備するため、校舎の外壁・屋上防水改修や、トイレ改修・バリアフリー化への対応など、設備の充実を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい 環境
											妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
トイレ改修(洋式化)	%	61.6						79.0
外壁・屋上防水改修	校	3						毎年度3
できたこと(達成したこと)	トイレ改修は小学校5校・中学校2校を完了、外壁・屋上防水改修は小学校3校を完了、バリアフリー化としてエレベーター設置は中学校2校の工事を完了した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A		
		施設整備における予算の確保や、社会情勢の変化による作業員・資材不足、物価高騰への対応が課題である。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引続き施設の長寿命化を図り、安全・安心で快適な教育環境を整備する。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育の推進																	
担当課		学校教育推進課																	
実施事業	事業No.	1308			事業名		地域連携・地域移行をふまえた中学校部活動の改革推進												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	「多様な活動機会の確保」「教職員の部活動指導に係る負担軽減」を進め、生徒がスポーツや文化芸術活動を楽しむことで、生涯にわたって心身の健康を保持増進するとともに、自主性、協調性、責任感、連帯感を育成します。また、努力による達成感・充実感をもたらし、互いに励まし合い協力し合う中で友情を深めることにつながるため、持続可能な部活動の体制整備を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
														○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
部活層指導者活動回数	回	5,017						6000
部活指導者数	名	76						90
部活指導員数	名	14						28
地域クラブ数	団体	0						30
できたこと(達成したこと)	部活指導員、部活指導者の配置を進め、全校へ配置することができた。また、令和7年度においては拡充を予定しており、将来の地域クラブ指導者の担い手として、本市でのさらなる活躍を期待するとともに、教員の働き方改革および今後の部活動の地域展開への地盤を固めることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	予定回数に満たない部活指導者がいたことで、全体の指導回数がR5年度をやや下回った。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	部活指導員、部活指導者の配置において、教員の働き方改革と地域展開の推進、また生徒の充実感を得られるよう指導者を充足し、指導回数が増加できるような体制を構築する必要がある。
B		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和7年度に部活動指導員、指導者の増員を計画し、より一層の指導の充実を進める。そのために、登録人数を最大限充足していき、また域内の大学等との連携を深め、大学生とのマッチングにも注力していきたい。また、本市に適した地域展開を実施できるよう、各部の状況に応じた体制の構築に努める。
継続		

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇さまざまな悩みに対応する体制の充実

担当課		教育センター																	
実施事業	事業No.	1309			事業名		小・中学生及びその保護者に対する教育相談												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	児童・生徒の学習、性格、行動、身体、発達、進路、不登校等の教育に関して、電話・面接による相談を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
											妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
教育相談の実施(件数)	件	1,264						1,400
教育相談の実施(回数)	回	6,430						6,700
できたこと(達成したこと)	相談者の不安や悩みに寄り添った相談を実施することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	引き続き、相談者のニーズに応じた相談を実施していく。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	複雑化している教育諸課題へ対応。
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	これからも相談者のニーズに応じた相談を行っていくとともに、複雑化している教育諸課題へ対応できるよう、所内研修会等で相談員のスキルアップを図っていく。
継続		

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇さまざまな悩みに対応する体制の充実

担当課		学校教育推進課																	
実施事業	事業No.	1310			事業名		生徒指導(いじめ・不登校・問題行動等)への対応												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	学校内外の関係機関とのつながりの構築、また教育支援ルームの活用を図り、学校の組織体制の構築を推進します。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
小中暴力行為発生件数	件	96						144
小中不登校児童生徒数	人	807						396
できたこと(達成したこと)	校内教育支援ルームの設置により小学校、中学校ともに不登校児童生徒数の増加を抑制できている。暴力行為については減少傾向にある。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	校内外の機関等から相談・指導等を受けていない児童生徒数の割合が高い学校が多数見られた。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	COCOLOサポーターの活用を充実させるため、サポーターへの研修会の充実とともに、担当者会等を通じて各校へ継続して活用方法の周知を行う必要がある。また、不登校児童生徒や暴力行為の減少のため専門家の意見を更に取り入れる必要がある。
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	担任以外に保健室やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等とつながりが持てるよう、担当者会や研修会等で各校へ呼びかけを行う。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家によるアセスメントを活用することも進める。
継続		

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇さまざまな悩みに対応する体制の充実

担当課		学校教育推進課																
実施事業	事業No.	1311			事業名		スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置											
	SDGs																	
						○												
	事業内容	スクールソーシャルワーカーおよびスクールカウンセラーの量的・質的充実に向けた支援(担当者連絡会の開催等)を図り、各校の組織体制に位置づけ、多職種連携の充実をすべての学校で推進します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる
											妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
													○					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
教職員を含めた事例検討会議(ケース会議)の回数(SSW)	回	14,290						17,000
教職員を含めた相談の回数(SC)	回	11,694						12,000
できたこと(達成したこと)	大阪府からスクールカウンセラーを配置されたことで、心理教育やケース会議などを任せることができ、市費のカウンセラーはカウンセリングの時間や担任との共有の時間を確保することができた。また、スクールソーシャルワーカーについては月2回のGSV(グループスーパービジョン)を開催することで、ケース検討の共有を行い、事象対応につなげ相談件数の上昇につなげた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	府費カウンセラーが全校に配置されたことで、市費カウンセラーのカウンセリングの数が減少した。また、スクールソーシャルワーカーについては、小学校に積極的に巡回するよう努めたが、十分な訪問回数を確保することが難しかった学校もあった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	スクールソーシャルワーカーについては、今後小学校への訪問回数や連携回数を増加させることが課題である。中学校訪問を基準とするが、月に数回程度は必ず小学校訪問できる体制の構築が必要である。スクールカウンセラーについては、スクールソーシャルワーカーとの連携や教員、府費スクールカウンセラーとの連携の時間を確保できるようにしていく。

これからの取組

今後の方向性		
量的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	スクールソーシャルワーカーについては、ケース検討として児童生徒、保護者のニーズに答えるだけでなく、ケース会議、各校の校内会議への出席、個別での教職員からの相談件数を増やすことを取り組む。特に小学校への訪問回数を増加させるために、体制を整える。スクールカウンセラーについては、担当校を減らし、担当校への回数を増やすことで相談時間や共有時間が確保できるので人員の増やしていきたい。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇さまざまな悩みに対応する体制の充実																	
担当課		教育センター																	
実施事業	事業No.	1312			事業名		こども本人からの相談												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	こども本人からのいじめ等に対して電話による悩み相談を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
こども本人からの電話相談数	件	6						5
できたこと(達成したこと)	・子ども本人の相談に対して、傾聴しケースに応じたアドバイスを行った。 ・教育相談のお知らせを作成し、全校配布を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	概ね実施できた。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	いつでも電話相談をできるよう、更なる周知が必要である。また、相談員が課題に応じて対応できるように、相談スキルの向上が必要である。

■これからの取組

今後の方向性		
量的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	課題はケースごとに異なるため、相談員のスキル向上が常に必要である。相談員のスキル向上のための研修を実施するとともに、大阪府教育センターのLINE相談(すこやか相談)も含め周知の仕方や時期を工夫していく。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

担当課		社会教育振興課																	
実施事業	事業No.	1313			事業名		こども会活動の支援												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	こども会活動を通じて地域のこどもたちの自主性や社会性を養うことができるよう、さまざまな体験活動を実施できるよう支援します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持てたいと思える環境
	妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期															
			○																

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
こども会を対象に開催した事業数	回	7						7
できたこと(達成したこと)	参加要件の見直しを図り、多くのこどもたちが体験活動を経験する機会を提供できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	計画内容に沿って、茨木市こども会育成連絡協議会と協議し運営したため、特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	今後も、こどもたちが様々な体験活動を経験する機会やニーズを検討し提供していく必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	時代の変化とともにさまざまな選択肢があることから、こども会数は減少している。今後は、地域社会のあり方を考慮しながら、持続可能なこども会支援策を検討していく。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇学校・地域・家庭の連携																	
担当課		スポーツ推進課																	
実施事業	事業No.	1314			事業名		スポーツ少年団の育成												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	こどもの時期からスポーツに触れる機会を充実させます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
														○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
スポーツ少年団の登録団員数	人	586						600
できたこと(達成したこと)	スポーツを通じた子どもの健全育成のため、スポーツ少年団の活動を広報により周知することや体育協会を通じて補助金を執行するなど支援をおこなった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍以前の団員数まで回復することには至らなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	昨年度の会員数が544人であり、今年度は約7%増加したことから、一定の効果が見られた。引き続き、子ども達にスポーツをする機会の提供に努める。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	来年度のスポーツ少年団の事業に向けて、スポーツ少年団の活動を学校や地域拠点施設を通じて広報に努める。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

担当課		スポーツ推進課																	
実施事業	事業No.	1315			事業名		スポーツ環境の整備												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	身近な地域でスポーツやレクリエーションに取り組めるよう環境の整備を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
													○	○	○				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
総合型地域スポーツクラブ会員数	人	1,392						1,400
できたこと(達成したこと)	総合型地域スポーツクラブの運営事業について、広報や魅力的な教室の開催により会員数の増加を図った結果、徐々に会員数の増加がみられた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	会員数が微増しているものの、コロナ禍以前の会員数までには至らなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		昨年度の会員数が1,338人であり、今年度は約4%増加したことから、一定の効果が見られた。 引き続き、総合型地域スポーツクラブの会員増のための効果的な施策について、総合型地域スポーツクラブと市が連携して協議を進める必要がある。

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	
継続		
		来年度の総合型地域スポーツクラブの運営方針を決定するまでに、地域住民にとって参加しやすい教室の開催や魅力的なイベントについて検討を進める。

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

担当課		環境政策課																	
実施事業	事業No.	1316			事業名		環境教育・啓発												
	SDGs																		
									○					○	○				○
	事業内容	将来を担う子どもたちをはじめとする幅広い市民を対象に、環境に関する学習会・研修会・観察会等を開催し、環境保全意識を高め、環境行動につなげていきます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
													○	○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
小学校での環境学習プログラムの実施回数	回	11						20
できたこと(達成したこと)	小学校での環境学習プログラムの実施回数が昨年度より増加した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	環境学習プログラムの利用校数は前年度と同じであった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	小学校では、環境学習以外の学習や行事でスケジュールが埋まり、環境学習プログラムを実施する時間の確保が難しい。また、企業でも環境教育の出前講座を実施しているため、そちらを実施する学校もある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	環境学習プログラムの内容を見直し、小学校で活用しやすいものにする。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇学校・地域・家庭の連携																	
担当課		社会教育振興課																	
実施事業	事業No.	1317			事業名		家庭教育支援												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	こどもを育成するために必要な知識及び技術を身に付け、保護者としての家庭教育力の向上を図るための学習の機会を提供します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
				○															

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
家庭教育関係事業実施回数	回	8						7
できたこと(達成したこと)	家庭教育支援を踏まえ、親子を対象とした講座を企画・実施し、多くの参加者を集めることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	講座では多くの参加希望者があったが、十分な受入体制が整っていない。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	講座内容の工夫で参加希望者を多く集め、家庭教育に関する学習機会の提供につなげることができた。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	家庭教育を支える質の高い講座や適切な実施形態を検討していく。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

担当課		子育て支援課、学校教育推進課																	
実施事業	事業No.	1318			事業名		乳幼児とのふれあい・交流												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	こどもを産み育てることや生命の大切さなどを学ぶとともに、自分の存在価値について改めて確認することができるよう、乳幼児とのふれあい体験の機会を提供します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
														○	○				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
派遣件数	件	9						5
いのちの交付金実施報告書	中学校	14						14
できたこと(達成したこと)	事業利用校全てで事業内容をかなえることができた。(子育て支援課) いのちの大切さ、いのちを授かることの尊さ、子育ての大変さや愛情の大きさを感じ、自分も他社もかけがえのない大事な存在であり、自分で自分を認めることが大事であることを学ぶことができた。防災の観点でいのちの交付金を活用し、いのちの大切さを学ぶ学校もあった。(学校教育推進課)							
できなかったこと(達成できなかったこと)	派遣先が全て高等学校で中学校に広げることができなかった。(子育て支援課) 特になし。(学校教育推進課)							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	限られた学校のための依頼になっている。(子育て支援課) 「生まれてきてよかった」「自分は大切な存在である」「誰もが大切にされて生きる社会を創造したい」という意欲や道徳性、人権感覚を育成し、「命の大切さ」を自分の事として実感できる学習を推進する。(学校教育推進課)
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	市内、公立中学校、高等学校に事業案内を年度当初に送付し、授業計画に組み込んでもらえるようにする(子育て支援課) 交付金の説明の際、事業の意図を周知し、発信する。(学校教育推進課)
量的充実		

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

担当課		都市政策課																		
実施事業	事業No.	1319			事業名		こどもたちの体験型まちづくり学習													
	SDGs																			
													○							
	事業内容	こどもたちの「まち」や「まちづくり」への関心を高め、将来のまちづくりの担い手としての成長を期待して、身近なまちづくりについて考え、実践につながるような学習の場を提供します。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
														○	○					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
学校での授業の実施回数	回	6						1
できたこと(達成したこと)	追手門学院大学、大阪成蹊大学、立命館大学の学生に対し、市が進めているまちづくりについての授業を実施した。市のまちづくり施策について知ってもらうとともに、次世代の担い手である自分たちがまちに対して何ができるかを考えてもらう機会となった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	限られた授業時間内での実施であり、提案等を出してもらうことはできたが、実践につなげることまではできなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B	まずは、まちづくりについて知ってもらい、関心をもってもらうことが大事である。限られた時間ではあるが、次世代のまちづくりの担い手である学生に対し、まちづくりがなぜ大事なのか、課題に対しどのようにアプローチしていくか実践例を踏まえて伝えることができた。実際にやってみたいという声や学生らしい発想を活かした提案もあり、一定の成果があったといえる。今後、授業の中でテーマに沿って実際にまちづくり案を出してもらうだけでなく、市が取り組むまちづくりに参加してもらう仕掛けや継続的に関わってもらうフィールド等を上手く提示し、企画・提案と実践をつなぐ内容も盛り込む必要がある。	

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き学校等と連携して、まちづくりについて知ってもらう場を設けていく。授業内容については、必要に応じて、こども・若者のまちづくりに対する興味・関心を事前に確認するなど、まちづくりに参加してみたい、やってみたいと思える内容にブラッシュアップし、こども・若者のまちづくりへの参加や実践につなげていく。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

担当課		市民生活相談課																	
実施事業	事業No.	1320			事業名		消費者教育支援												
	SDGs																		
														○					
	事業内容	こどもの消費者教育の推進に向けて、市内学校等で出前講座を実施し、学習の機会を提供します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
														○	○				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
市内学校等への出前授業実施校数	回	10						11
できたこと(達成したこと)	市内の小・中学校および大学に対して出前講座を積極的に紹介し、各教育機関の授業等への活用を推進した結果、出前講座の受講者数を増加させることができた。また、市内大学との協力体制を構築し、試験的に出張相談を実施するなど、地域の教育機関との連携強化を図る取組を進めた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	市内大学で試験的に実施した出張相談では、消費生活センターの業務内容に対する認識が不足しており、自発的な利用がほとんどない状況であった。また、大学生が少額の消費トラブルをトラブルと認識していないケースが見られたことから、消費生活に関する知識の普及・啓発を一層強化する必要性がある。
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	消費生活に関する知識の普及・啓発を一層強化するため、若年層の出前講座受講人数の増加を目指し、学校等に消費生活センターの業務内容の周知を図る。
継続		

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇安全で安心な居場所づくり																	
担当課		社会教育振興課																	
実施事業	事業No.	1321			事業名		上中条青少年センターの運営												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	放課後や休日に自由につどい、遊び、年齢を超えて交流できる居場所づくりを進めます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
利用者数	人	7,587						9,500
できたこと(達成したこと)	設備や書籍の充実に努め、快適な居場所の提供を図った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	計画内容に沿って安全安心な居場所を提供したため、特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	さらなる利用促進のための周知が必要である。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	利用促進を図るため、「青少年センターだより」等で周知を図る。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

担当課		地域福祉課、こども政策課																	
実施事業	事業No.	1322			事業名		多世代交流センターの運営												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	小学生が放課後や休日に自由につどい、遊び、中高生が学べる居場所づくりを進めます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたい
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
														○	○				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
学習室利用延べ人数	人	2,915						4,500
こども利用延べ人数	人	11,476						15,000
できたこと(達成したこと)	こどもの利用延べ人数について、R5年度と比較して857人増加した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	学習室の利用延べ人数について、R5年度と比較して348人減少した。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	学習室や、小学校高学年が利用できるこどもフリールームについて、地域において十分に周知されていない。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	学習室やこどもフリールームのさらなる周知を行う。令和11年度までに、年間の学習室の延べ利用者数を4,500人に、こどもの利用延べ人数を15,000人にする。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																		
施策の方向		◇安全で安心な居場所づくり																		
担当課		こども政策課																		
実施事業	事業No.	1323			事業名		ユースプラザの運営													
	SDGs																			
		○	○	○	○															
	事業内容	中学生からおおむね39歳までのこども・若者が、気軽に過ごすことができ、社会体験や交流・相談ができる居場所づくりを進めます。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
														○	○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
ユースプラザの満足度 (本人・保護者・支援者)	点	8.7						8.5
ユースプラザの延べ利用者数 (居場所)	人	9,780						10,000
ユースプラザの延べ利用者数 (ふれあい・交流サロン)	人	23,046						24,000
できたこと(達成したこと)	中央ブロックの実施拠点を2か所から1か所に変更したことで、利用者の利便性が向上した。 また、支援員の支援力向上のため、相談支援に係る専門シートを活用し、支援の現状確認や見直しを行うとともに、外部より講師を招き、研修会を実施した。							
できなかったこと (達成できなかったこと)	中央ブロックにおける中高生の利用者を増やすこと。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	現在の中央ブロックの実施拠点は、貸室であるため中高生が利用したくなるような雰囲気づくりができず、必要な部屋数を確保できていない。

■これからの取組

今後の方向性		
質的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	中央ブロックの実施拠点の見直しを検討する。 また、引き続き相談支援に係る専門シートを活用するとともに、外部講師を招いた研修会を実施し、支援力の向上を図る。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

担当課		学童保育課																		
実施事業	事業No.	1324			事業名		学童保育室の運営													
	SDGs																			
						○													○	
	事業内容	入室児童数の見込みにより教育委員会・小学校と連携し、場所の確保に向けて協議するほか、民間事業者による施設設置を促進します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境	
											妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期						

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
入室児童数	人	2,935						3,784
支援の単位数	クラス	80						98
できたこと(達成したこと)	・学童保育室の受け皿確保に向けた中長期的な方針を記した茨木市学童保育室整備計画を策定した。 ・円滑な保育場所の確保に向けて、教育委員会及び小学校と協議を重ねた。また、保育需要の高い学童保育室においては、特別教室のタイムシェア運用や近隣公共施設の有効活用について、学校関係者に加えて、関係部局や施設管理者とも連携を図り、次年度に向けた保育場所を確保した。 ・民間事業者に対して施設整備補助を行うことにより、開設を促し、開所数の増加につなげた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A	共働き世帯の増加等に伴い、今後も当面は保育需要の高水準が続くことが予想されるが、現状で利用者が定員に達している施設もあり、学年拡大を視野に含めると、現在の建物や教室で利用者の増加に対応するには一部の学童保育室では限界がある。	

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	・小学校における35人以下学級の推進により、転用可能教室が不足するおそれがあることから、今後も利用希望者が増加する見込みの学童保育室について、小学校敷地内等への専用建物の新築、近隣公共施設の借用等を検討する。 ・小学校の敷地内に設置している専用建物のうち、設置から15年以上が経過しているものについて、大規模修繕又は建替えを検討するとともに、小学校の校舎内に転用可能教室がある場合は、その教室の活用について、教育委員会及び小学校と協議を行う。 ・民間学童保育室に対する施設整備補助の継続的な実施を通じて、受け皿の拡充を図る。

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

担当課		学童保育課																	
実施事業	事業No.	1325			事業名		放課後児童健全育成事業の支援												
	SDGs																		
																			○
	事業内容	放課後児童健全育成事業を行う民間事業者に対し、運営費の一部を補助することにより、待機児童の解消を図るとともに、児童の安全・安心な居場所の確保を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
													○						

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
民間学童補助施設数	施設	10						15
できたこと(達成したこと)	10事業者の民間学童保育運営に対し、事業運営補助金の支出を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	補助金の支出により、事業目的である「待機児童の解消や児童の安全・安心な居場所の確保」には一定の効果が認められるものの、民間学童保育料への還元などの保護者負担の軽減にはつながっていない可能性がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き事業運営補助金を支出することにより、事業目的の実現を図るとともに、他の自治体の補助要件等を研究することにより、さらなる事業の推進を図る。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

担当課		学童保育課																	
実施事業	事業No.	1326			事業名		学童保育室指導員の研修												
	SDGs																		
						○													○
	事業内容	さまざまな課題を持つ児童に対応できるよう指導員の資質向上につながる研修を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
											妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
研修実施回数	回	17						20
できたこと(達成したこと)	指導員の資質向上、専門性を高めるための研修を実施した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	指導員のニーズに応えられるよう、研修メニューのさらなる充実を図る必要がある。 また、個々の学童保育室運営の方法等を知るために、指導員同士の情報共有の場の設定が必要である。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	指導員のニーズを把握するとともに、指導員の資質向上、専門性を高めるための研修を引き続き実施し、学童保育室ごとの運営方法等の状況を共有するための機会の設定を検討する。

■計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

担当課		社会教育振興課																	
実施事業	事業No.	1327			事業名		放課後子ども教室の推進												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	放課後等に子どもたちの安全で健やかな居場所の確保を図るため、地域住民や大学生等の参画を得て、子どもたちと諸活動に取り組み、地域社会全体で地域の子どもたちを見守り育む居場所づくりを推進します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持て育てたいと思える環境
	妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期															
			○																

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
実施日数	日	2,058						2,562
できたこと(達成したこと)	地域の実情に応じた諸活動を実施することで、実施日数は横ばいとなった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	計画内容に沿って安全・安心な居場所を提供することができたため、特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A	高齢化等によりボランティアが不足しているため、地域の実情に応じ、新たなボランティアの確保が必要である。	

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	代表者連絡会等を通じて情報共有を図り、各校区と解決策を検討する。

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

担当課		学童保育課、社会教育振興課																	
実施事業	事業No.	1328			事業名		新・放課後こども総合プランの推進												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	学童保育室と放課後こども教室の両事業に児童が参加しやすいような環境整備や学童保育指導員と放課後こども教室コーディネーターの連携促進に努め、放課後の居場所の充実を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたい
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
													○						

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
一体型の小学校区数	校区	30						30
できたこと(達成したこと)	放課後子ども教室実行員会に学童保育指導員が出席し運営の方法等の情報共有を行うことができた。また、放課後子ども教室が実施する活動に指導員も参加し、見守りの連携をとることができた。(学童保育課) 学童保育室と放課後子ども教室の児童と一緒に体験することができるプログラム等を実施した。(社会教育振興課)							
できなかったこと(達成できなかったこと)	一部小学校の放課後子ども教室実行員会に学童保育指導員が参加できていない。(学童保育課) 学童保育指導員と放課後子ども教室のスタッフ間で情報共有の場を設けることができない校区が一部あった。(社会教育振興課)							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		放課後子ども教室のボランティアと学童保育指導員で運営面、安全面での認識の違いがある。(学童保育課) すべての校区でスタッフ間の情報共有を行う。(社会教育振興課)

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	放課後子ども総合プラン運営委員会で、社会教育振興課と学童保育課が運営面、安全面における課題を共有するとともに、認識等の違いを改める。また、指導員の放課後子ども教室実行委員会への積極的な出席を勧奨し、放課後子ども教室、学童保育室のさらなる連携を図る。(学童保育課) 茨木市放課後子ども総合プラン運営委員会等により、すべての校区でスタッフ間の情報共有を行う。(社会教育振興課)

計画

施策の展開	ライフステージごとの施策
施策の方向	◇若者の自立をめざした支援

担当課		社会教育振興課																		
実施事業	事業No.	1401			事業名		青少年に関する相談													
	SDGs																			
					○															
	事業内容	青少年とその保護者の相談に応じ、諸問題を解決するため、必要に応じて適切な関係機関と連携を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境	
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期					
														○	○					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
相談件数	件	1						5
できたこと(達成したこと)	関係機関と情報を共有するなど連携を図ることで、相談者自身の問題解決に向けた行動へと繋げることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	相談に対し、関係機関と連携を図ることができたため、特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	相談内容により関係機関が異なるため、適切な機関とスムーズに連携を図ることができるよう環境づくりが必要である。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	様々な課題を抱える青少年の相談窓口のひとつとして、引き続き周知を行いながら、関係機関とスムーズに連携を図ることができる環境づくりを進める。

計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇若者の自立をめざした支援																	
担当課		こども政策課																	
実施事業	事業No.	1402			事業名		子ども・若者自立支援センター												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	ひきこもり等の状態にあるこども・若者が社会参加できるよう、「子ども・若者自立支援センター」において、ひきこもり等の当事者や家族の相談・支援を行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 思える環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
																			○

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
面談件数(保護者・本人)	件	2,595						1,968
できたこと(達成したこと)	生きづらさを抱えるこども・若者の相談支援を実施し、利用者の状態が改善した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	さまざまな支援機関との幅広い支援連携ができなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	子ども・若者自立支援センターとケース連携している機関が限定的である。 また、子ども・若者自立支援センターの成果を図る活動指標を検討する必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
質的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	茨木市子ども・若者支援地域協議会のサポート機関として、専門知識を活かした連携ができるよう、茨木市子ども・若者支援地域協議会の部会やケース会議等を通じて関係性の構築に努める。 また、子ども・若者自立支援センターの成果を図る活動指標を検討する。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																				
施策の方向		◇就労支援																				
担当課		商工労政課																				
実施事業	事業No.	1403			事業名		就職サポート															
	SDGs																					
									○	○												
	事業内容	就労支援などを行う関係機関と連携し、就職困難者等の職業的自立をめざすため、就職相談、講習会・セミナーの実施や職業訓練校等への誘導、合同就職面接会の開催など就職に向けた支援を行います。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境		
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期						
																			○			

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
労働・職業に関する相談件数	件	112						120
就労支援フェア来場者数	人	374						350
就労支援フェア就職者数	人	25						50
就職支援セミナー受講者数	人	37						50
企業説明会・見学会参加者数	人	33						
職業能力開発講座受講者数	人	16						5
再就職支援助成金利用者数	人	0						5
三島地域若者サポートステーションへの案内	件	0						1
できたこと(達成したこと)	就労支援フェアの合同就職面接会において、参加求人企業のPRシートを市ホームページやフェア会場で紹介したことにより、求職者と参加企業のマッチングを促進することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	職業能力開発講座として、自営型テレワークの実践講座を実施したが、実績的内容で実施するには、日数的には不足していた。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	自営型テレワークについては、多様な働き方の1つとして、市民の関心が高く、入門的内容と実践的内容に分けて実施する等充実したメニューで実施しているが、実践講座については、限られた時間の中で実践的内容を網羅することは困難である。 また、企業説明会・見学会は、10月開催の就労支援フェアの合同就職面接会参加企業が行う現地説明会・見学会であり、求職者にとっては、企業の様子を知った上で合同就職面接会にのぞめるメリットがあるにも関わらず、企業の魅力発信等がされていない等の理由から、参加者が少ない状況にある。
B		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	自営型テレワークについて、実践講座は府や民間企業等で同種のセミナーが実施されていることから、廃止し、入門講座の内容を現状より充実した講座とする。 また、将来の就職を見据え、早期からの企業の魅力を伝えていくため、企業説明会・見学会を終了し、令和7年度に、市内在住の中学生以上の若者を対象とした市内企業の事業内容を参加者体験型で知るイベントを実施する。
質的充実		

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																		
施策の方向		◇就労支援																		
担当課		農林課																		
実施事業	事業No.	1404			事業名		青年就農事業													
	SDGs																			
														○			○		○	
	事業内容	地域農家制度や就農支援塾あぐりば等を通して、農業経営に必要な技術・知識等の習得を促すことで、新規就農者の確保・育成を図ります。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
															○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
青年就農認定者数(累計)	人	7						20
できたこと(達成したこと)	新たに地域農家制度と就農支援塾あぐりばを開始し、就農希望者の技術や経験をサポートした。既に認定を受けている就農者へのサポートや補助金の交付を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	認定者数を増やせなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	令和6年度については、新たな取り組みの初年度であり、就農希望者の技術習得に時間を要したため、青年就農認定に至る人はいなかったが、次年度以降はあぐりば修了生を中心に青年就農認定者が増加する見込みであり、活動による成果が高いと考える。 一方、農作物を出荷して生計を立てることは容易なことではなく、息の長いサポートが必要であるという課題がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き地域農家制度と就農支援塾あぐりばを実施し、就農希望者の技術や経験をサポートすることで、新規就農者の安定的な増加をめざす。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策															
施策の方向		◇青少年の健全育成															
		①交流活動の推進															
担当課		文化振興課、社会教育振興課															
実施事業	事業No.	1405				事業名				姉妹・友好都市との青少年交流							
	SDGs																
					○												
	事業内容	キャンプや文化芸術活動等により、姉妹・友好都市とさまざまな交流機会を設け、子ども同士の交流を通じて、連帯感や協調の精神、国際感覚の養成を図ります。									ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる
											妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期			こどもを持ち育てたいと思える環境
													○	○			

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
参加人数	人	32						32
絵画・書の交換作品数	点	38						50
できたこと(達成したこと)	定員32名を小豆島へ連れていき、現地の小学生と交流する機会を設けることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		キャンプ:特になし。毎年定員をオーバーする人気企画。(社会教育振興課) 絵画・書の交換事業:特になし。(文化振興課)

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	キャンプについて、実施方法の変更による定員数の減少に合わせ、R11(目標)の参加人数を64人から32人に変更する。
継続		

計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇青少年の健全育成																	
		①交流活動の推進																	
担当課		文化振興課																	
実施事業	事業No.	1406			事業名		青少年の国際感覚と英語等の語学力の育成												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	茨木市国際親善都市協会青少年活動室などにおいて、歌やゲームを通して、楽しみながら英語等を学ぶことで、こどもの国際感覚と語学力を養成します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
参加人数	人	130						200
できたこと(達成したこと)	「英語で遊ぼう」、「中国語で遊ぼう」を開催し、小学生を中心に歌やゲームを取り入れ、楽しみながら英語等を学ぶことができた。 また、イースターやハロウィン等をテーマとした活動回を設定し、他国の文化にふれる機会を設けたことで、国際感覚を養うことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	参加者数を増加させることができなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		市広報誌での周知可能回数が2か月に1度に減少したことによる参加者数の減少が顕著であり、市広報誌を補完する周知方法を模索することが課題である。 加えて、人気のある工作等のワークショップの機会を増やす等、活動の魅力を高める必要がある。

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	
継続		
		令和8年度までにワークショップの機会を増やす。加えて、参加者への今後の活動と申込方法の周知の強化を図り、リピーターの確保に努める。 各教室のニーズの動向を踏まえ、R11(目標)の参加者人数を400人から200人に変更する。 R11(目標) 英語で遊ぼう:120人(15人×8回)、中国語で遊ぼう:80人(10人×8回)

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇青少年の健全育成																	
		①交流活動の推進																	
担当課		社会教育振興課																	
実施事業	事業No.	1407			事業名		青少年健全育成												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	地域における青少年健全育成活動を推進するため、関係団体事業の活動を支援します。また、青少年が主体的に取り組み自己有用感を高めるためのイベントを実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
補助事業率	%	65						80.0
「青少年による青少年のためのイベント」に運営参加した高校生・大学生数	人	101						100
できたこと(達成したこと)	補助事業や「ほっとけん！アワード」の実施による、青少年健全育成に係る地域行事の促進。「青少年による青少年のためのイベント」事業による、青少年の異年齢交流と自己有用感の向上。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	重点目標に沿って実施された補助事業率の増加。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	青少年健全育成運動重点目標に沿って実施された補助事業率が伸び悩んでおり、青少年健全育成団体の活性化が課題となっている。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	青少年健全育成団体の連絡会により、各団体の課題や解決法の共有を図る。「ほっとけん！アワード」を実施し、青少年団体の行事の好事例や工夫点等を地域に発信し、青少年団体の活動促進を図る。

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策															
施策の方向		◇青少年の健全育成															
		②体験活動の推進															
担当課		社会教育振興課															
実施事業	事業No.	1408			事業名		青少年の野外活動										
	SDGs																
					○												
	事業内容	体験活動を経験することが必要であるため、青少年に多様な機会を提供します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
													○	○	○		

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
利用者数	人	7,800						8,000
主催事業の参加人数	人	2,047						2,500
できたこと(達成したこと)	ホームページ、野外活動センター便りなど広報の充実も図り年間利用者数は横ばいとなった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	計画的に実施、運営できたため特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	利用者のニーズをより理解できるように利用後のアンケートを依頼するなどして、より効果の高い体験活動を提供できるようにする。
A		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	参加人数の偏りなどを分析し、ニーズにあう体験活動の提供を引き続き行っていく。
継続		

■計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇青少年の健全育成																	
		②体験活動の推進																	
担当課		社会教育振興課																	
実施事業	事業No.	1409			事業名		青少年センター行事												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	こどもたちに豊かな体験活動の機会を提供するため、上中条青少年センター主催事業として、上中条青少年センターを中心に市の各施設を活用し、土曜日講座・イベントを実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
参加人数	人	1,177						2,000
主体事業数	事業	43						50
できたこと(達成したこと)	関係団体や大学生と連携した子どもセミナー等を実施することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	計画に沿ってセミナー等を企画したため、特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	こどもに興味を持ってもらえるセミナー等の企画・運営が課題である。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	関係団体や大学生と連携しながら、引き続き、こどものニーズを捉え、興味を持ってもらえるセミナー等を企画・運営していく。

計画

施策の展開		ライフステージごとの施策																	
施策の方向		◇青少年の健全育成																	
		②体験活動の推進																	
担当課		スポーツ推進課																	
実施事業	事業No.	1410			事業名		各種スポーツ・レクリエーション活動												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	身近な地域でスポーツやレクリエーションに取り組めるよう環境の整備を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
														○	○				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
地区スポーツ・レクリエーション大会の参加者数	人	22,716						25,000
できたこと(達成したこと)	市内28地区において開催された地区体育祭や地区スポーツレクリエーション大会を対象に事業補助金を執行し地域スポーツの推進に寄与した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍以前の参加者数まで回復することには至らなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
C	取組における課題	昨年度から開催地区数が増加したものの、参加者数は約5%減少した。幅広い世代から参加できるよう競技設定や開催手法について工夫が求められる。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	来年度の実施に向けて、地域で開催されるスポーツイベントを広報し周知に努めるとともに、各地区の実施団体に対して効果的な開催が図れるよう相談支援をおこなう。

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要なこども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		①相談・情報提供															
担当課		こども政策課															
実施事業	事業No.	2101		事業名		ひとり親家庭の相談・支援											
	SDGs																
		○		○													
	事業内容	ひとり親自立支援員がひとり親家庭等の保護者からの相談について、関係機関と連携を図り対応を行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		こどもをもち育てたいと思える環境
																○	

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
ひとり親家庭等の相談件数	件	643						800
できたこと(達成したこと)	自立・就労に向け、一人ひとりの状況やニーズに応じた支援を適切に行うことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	ひとり親家庭等の相談件数が年々減少しており、活動指標の目標件数に達しなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
	取組における課題	統一的かつ適切な市民対応を行うため、支援員によって対応が異なることがないように水準を合わせる必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	相談内容に応じて各種制度の案内に努め、関係機関と連携しながら自立に向けた支援を引き続き実施していく。

計画

施策の展開		社会的な支援が必要なこども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		①相談・情報提供															
担当課		こども政策課															
実施事業	事業No.	2102		事業名		ひとり親家庭への情報提供											
	SDGs																
		○		○													
	事業内容	関係課と連携して、ひとり親家庭対象の講座等を実施し、ひとり親家庭に必要な情報提供と啓発を行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		こどもをもち育てたいと思える環境
																○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
ひとり親家庭施策案内の発行部数	部	395						500
できたこと(達成したこと)	「ひとり親家庭の施策案内」冊子発行後に制度改正された事業が多くあったため、次の発行のタイミングを待たず、年度途中に内容を更新し再発行することで、ひとり親家庭に最新情報を提供することができた。また、冊子のほか、スマホから市HPの「ひとり親支援施策」のページが確認できる二次元コードを掲載した「ひとり親自立支援員の名前を掲載した名刺サイズのカード」を関係窓口等に配架することにより、継続した支援体制を整えることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	特になし。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、ひとり親家庭に必要な情報提供と啓発についてあらゆる機会を通して実施する。

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要なこども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		①相談・情報提供															
担当課		こども政策課															
実施事業	事業No.	2103		事業名		ひとり親自立支援員のスキルアップ											
	SDGs																
		○		○													
	事業内容	ひとり親自立支援員のスキルアップのため、大阪府の自立支援員研修等への受講を促します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		
																○	

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
研修受講回数	回	13						10
できたこと(達成したこと)	大阪府や関係機関が実施する研修を受講することで、他の受講者との情報交換のほか、ひとり親支援施策に係る最新情報の入手が可能となり、ひとり親自立支援員のスキルアップにつながった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A		
		自立支援員の入れ替わりが続いているが、経験年数の長短にかかわらず支援員によって対応に差が出ないように、さまざまな研修を受講する機会を逃さず受講し、スキルアップに努める必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き研修を積極的に受講し、ひとり親自立支援員のスキルアップを図る。

計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		①相談・情報提供															
担当課		こども政策課															
実施事業	事業No.	2104		事業名		ひとり親のための法律相談											
	SDGs																
		○		○													
	事業内容	離婚前の相談や、ひとり親家庭等が抱えるさまざまな法律問題(子育て、生活、就業、DV、養育費の確保、親権、慰謝料、財産分与など)や残業代や給与等の未払いなどの労働問題について、ひとり親家庭等の問題に精通する弁護士へ法律相談ができます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		子どもをもち育てたいと思える環境
																○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
ひとり親のための無料法律相談の件数	件	39						50
できたこと(達成したこと)	ひとり親家庭等の問題に精通する弁護士に法律相談することにより、子育て・生活、就業、養育費の確保など、ひとり親が抱える様々な課題を解決していくきっかけの場を提供することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	ひとり親のための無料法律相談件数が減少しており、活動指標の目標件数に達しなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		悩みを抱えるひとり親に少しでも多く弁護士に法律相談していただけるよう、広報誌やひとり親家庭の施策案内等で周知するとともに、窓口等で個々にご案内するなど相談件数を増やす工夫を図る。

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	
継続		
		日々の相談業務において、自立支援員が弁護士への法律相談が必要と感じるひとり親に対して、ひとり親のための無料法律相談を予約するよう案内する。

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		②子育て・生活支援															
担当課		保育幼稚園事業課															
実施事業	事業No.	2105				事業名		ひとり親家庭の保育所の優先入所									
	SDGs																
				○													
	事業内容	保育所の入所において、ひとり親家庭の受け入れを優先します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	社会全体で支援できる	子どもをもち育てたいと思える環境
																○	

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
ひとり親家庭の入所児童数	人	111						120
できたこと(達成したこと)	保育所等利用調整指数表において、ひとり親家庭に4点または5点の加点項目を設け、当指数表に基づき優先的に利用調整を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	特になし。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、指数表に基づきひとり親家庭を優先した利用調整を行う。

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり																	
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援																	
		②子育て・生活支援																	
担当課		学童保育課																	
実施事業	事業No.	2106			事業名		学童保育室の優先入室												
	SDGs																		
		○																	
	事業内容	一斉受付で待機児童が発生した場合、ひとり親家庭等の受け入れを優先して行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																	○		

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
一斉受付におけるひとり親家庭の待機児童数	人	0						0
できたこと(達成したこと)	(一斉受付において待機児童が発生しなかったため、該当事象がなかった。)							
できなかったこと(達成できなかったこと)	(一斉受付において待機児童が発生しなかったため、該当事象がなかった。)							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	待機児童の発生はなく、該当事象がなかった。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、ひとり親家庭等の児童の居場所確保が必要であり、優先的な受け入れを行う。

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要なこども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		②子育て・生活支援															
担当課		こども政策課															
実施事業	事業No.	2107		事業名		母子生活支援施設への入所受入											
	SDGs																
		○		○		○											
	事業内容	母子生活支援施設と連携し、DV被害者、生活困窮者、母子家庭などの保護を行うとともに、入所家庭の自立促進を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		こどもをもち育てたいと思える環境
																○	

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
入所世帯数	世帯	1						—
できたこと(達成したこと)	支援を必要とする母子に対し、サービス提供することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) —:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	一定の基準やマニュアルを整え、入所を希望する母子を公平に入退所させる必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	入所の要否を判断するための基準を定め、誓約事項、退所に向けての計画書等を早期に整備する。

計画

施策の展開		社会的な支援が必要なこども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		②子育て・生活支援															
担当課		こども政策課															
実施事業	事業No.	2108		事業名		当事者団体への支援											
	SDGs																
		○		○													
	事業内容	当事者団体の活動内容を充実し、活動の活発化を促進することにより、母子家庭の福祉の向上を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		
																○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
ひとり親家庭の生活支援(情報交換)事業の交流会開催回数	回	6						6
できたこと(達成したこと)	ひとり親家庭の生活支援(情報交換)事業を母子福祉会へ委託して実施することにより、ひとり親家庭の早期自立及び家庭生活の安定を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	広報誌で事業の周知をしているが、新規参加者が少ないため、事業周知の工夫に努める必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ひとり親家庭の生活支援(情報交換)事業を母子福祉会へ委託して実施することにより、ひとり親家庭同士の交流やつながりをもつことで、早期自立及び家庭生活の安定が図れるよう引き続き支援していく。

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		②子育て・生活支援															
担当課		建築課															
実施事業	事業No.	2109		事業名		住宅支援											
	SDGs																
													○				
	事業内容	市営住宅の新規募集については、新婚世帯・障害者世帯・子育て世帯に対し、必要に応じ入居者募集の優先枠を設けます。また、府営住宅の入居者募集については、案内を配布します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		こどもをもち育てたいと思える環境
																○	

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
市営住宅新規年間募集回数	回	2						
できたこと(達成したこと)	新婚子育て世帯向けの部屋の改修を実施した。また、府営住宅の入居者募集の案内を年6回配布した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新婚子育て世帯向けの部屋が改修中であったため、令和6年度は募集ができなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
C	取組における課題	部屋の改修に高額のコストがかかる。また、若者向けに改修した部屋の周知が不十分である。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	応募促進のため募集案内に、ホームページの新婚子育て世帯向け住宅の掲載ページのQRコードを記載するなどにより、周知を行う。

計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		②子育て・生活支援															
担当課		こども政策課、福祉総合相談課															
実施事業	事業No.	2110		事業名		学習・生活支援											
	SDGs																
		○		○	○	○					○						○
	事業内容	生活困窮世帯・ひとり親家庭等の中学生を対象に学習支援を実施します。また、生活上の問題や進路選択(進学に要する費用や奨学金など)に関する各種相談に応じます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		
																○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
参加率	%	97						100.0
参加人数	人	91						86
できたこと(達成したこと)	中学3年生は全員進路が決定した。(福祉総合相談課) 学習・生活支援員が家庭訪問を行い、家庭の生活状況や保護者と本人の事業利用意向を確認した上で、学習会に誘導。保護者等からの生活相談も受けた。また、児童扶養手当現況届の集中受付時に、必要な生徒に支援がつながるように事業周知を行った。(こども政策課)							
できなかったこと(達成できなかったこと)	教育機関や他課との連携により参加人数が91人で目標値を上回ったが、支援を必要とする生徒が事業の利用に繋がっていないケースがある。(福祉総合相談課) 特になし。(こども政策課)							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		支援を必要とする生徒が事業の利用に繋がっていないケースがある。(福祉総合相談課) 継続的な参加が難しい生徒がいる。また、支援が必要な生徒が事業の利用に至っていない。(こども政策課)

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	利用勧奨を行い、学習の定着をはかる。また、支援が必要な生徒に支援が行き届くよう、年度内も継続して周知を行う。(福祉総合相談課) 支援が必要な家庭への直接的な情報提供が必要である。(こども政策課)

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要なこども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		③就労支援															
担当課		こども政策課															
実施事業	事業No.	2111		事業名		資格取得・技能習得のための支援											
	SDGs																
		○		○													
	事業内容	パソコン等の技能習得のための講座を実施します。また、資格取得、技能習得等のための受講料の一部や、長期訓練中の一定期間の生活費を補助します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		
																○	

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
支給件数(自立支援訓練給付金・高等職業訓練促進給付金等)	件	10						15
就業支援講習会等事業の受講者数(介護職員実務者研修)	件	5						18
できたこと(達成したこと)	介護職員実務者研修(子の一時保育あり)を実施し、介護保険事業所などで働く上で必要となる基本的な知識や技術を習得し、キャリアアップにつなげることで、ひとり親家庭の自立を促進することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	離婚前から支援が必要な方も対象者に追加されたことから、広く周知し制度案内する必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	さらなる周知に努め、就職の際に有利となる資格の取得を促進し、資格取得に伴う生活の負担を軽減し、ひとり親家庭の生活の安定を図る。

計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		③就労支援															
担当課		こども政策課															
実施事業	事業No.	2112				事業名		ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援									
	SDGs																
		○		○													
	事業内容	ひとり親家庭の学び直しを支援することで、より良い条件での就職や転職に向けた可能性を広げ、正規雇用を中心とした就業につなげていくため、高等学校卒業程度認定試験合格のための講座を受講する場合に、その費用の一部を支給します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		こどもをもち育てたいと思える環境
																○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
補助件数	件	1						3
できたこと(達成したこと)	ひとり親家庭の親等のより良い条件での就業及び転職の支援を図り、ひとり親家庭の親等の自立及び生活の安定につなげることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		ひとり親家庭の施策案内やHP等で周知はしているが、高等学校卒業程度認定試験合格のための講座を受講する希望者が少ない。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	全国的にも実績が少ない事業であるが、就労支援の相談受付時等に、積極的に事業案内を行う。

計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり																	
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援																	
		④経済的支援																	
担当課		こども政策課																	
実施事業	事業No.	2113			事業名		児童扶養手当												
	SDGs																		
		○		○															
	事業内容	こどもの成長やひとり親家庭の生活の安定を支援するため、こどもの養育に関する手当を支給します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
																	○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
受給者数(一部支給含む)	人	1,533						—
全部停止者数	人	315						—
できたこと(達成したこと)	制度改正(所得限度額と第3子以降の加算額の引き上げ)により、ひとり親の経済的支援の拡充が図れた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) —:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	状況確認書等の証明事務、現況届受付方法について、他市町村の状況を把握し、運用を確立させる必要がある。
A		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今年度中に状況確認書等の証明事務などの運用をマニュアル化し、こどもの成長やひとり親家庭の生活の安定を支援するため、こどもの養育に関する手当を継続して支給する。
継続		

計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり																	
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援																	
		④経済的支援																	
担当課		こども政策課																	
実施事業	事業No.	2114			事業名		ひとり親家庭の医療費の助成												
	SDGs																		
		○		○															
	事業内容	ひとり親家庭に属する養育者及び児童にかかる保険診療費の患者負担額の一部を助成します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
																	○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
助成件数	件	57,721						—
できたこと(達成したこと)	児童扶養手当の受給者数と連動し、対象世帯数は年々減少しているが、助成件数はそれほど減少することなく、サービスは適切に提供できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) —:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	特になし。
A		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ひとり親家庭に属する養育者及び児童にかかる保険診療費の患者負担額の一部を継続して助成する。
継続		

計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		④経済的支援															
担当課		こども政策課															
実施事業	事業No.	2115		事業名		ひとり親家庭への福祉資金の貸付											
	SDGs																
		○		○	○												
	事業内容	ひとり親家庭の経済的自立の助成と生活意欲の助長を図るため、ひとり親自立支援員が貸付相談を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		子どもをもち育てたいと思える環境
																○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
貸付件数	件	12						—
できたこと(達成したこと)	就学支度資金や修学資金を貸し付けることにより、ひとり親家庭の経済的自立等を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) —:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	特になし。
A		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ひとり親家庭の経済的自立の助成と生活意欲の助長を図るため、引き続きひとり親自立支援員が貸付相談を実施する。
継続		

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり																		
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援																		
		④経済的支援																		
担当課		こども政策課																		
実施事業	事業No.	2116			事業名		特別割引制度の周知													
	SDGs																			
		○		○																
	事業内容	児童扶養手当の支給を受けている世帯に対し、JR通勤定期乗車券等の割引制度の周知を図ります。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもを 思える環境
													妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
																	○			

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
交付件数	件	249						300
できたこと(達成したこと)	JR通勤定期乗車券の特別割引制度の窓口での申請手続きにおいて、次の2パターンにより書かない窓口を実施した。 ①申請フォームの二次元コードを読み取ってもらい、市民がマホから申請内容を入力 ②要件を聞き取り、オンライン申請システムに窓口職員が入力							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	特になし。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	働き方改革の影響等により交付件数は減少傾向にあるが、より効果的な制度の周知方法を検討し、継続して実施する。

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇ひとり親家庭への支援															
		④経済的支援															
担当課		こども政策課															
実施事業	事業No.	2117		事業名		養育費確保等支援事業補助金											
	SDGs																
		○		○													
	事業内容	離婚後の児童扶養手当受給者等の確実な養育費の受け取りを支援するため、養育費の取り決めにかかる公正証書等の作成費用や、養育費保証契約に係る保証料を補助します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		
																○	

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
補助件数	件	17						20
できたこと(達成したこと)	養育費が元の配偶者から支払われず経済的に困窮しているひとり親家庭に対し、補助金を交付することにより養育費を確実に受け取る仕組みを整え、ひとり親等の養育費の取り決め内容の継続した履行確保を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	特になし。
A		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	離婚後の児童扶養手当受給者等の確実な養育費の受け取りを支援するため、引き続き補助金を交付する。
継続		

■計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児・医療的ケア児の健やかな育ちの支援 ①適切な療育・保育の提供

担当課		発達支援課																			
実施事業	事業No.	2201			事業名		すくすく親子教室の運営														
	SDGs																				
				○																	
	事業内容	初期療育機関として、引き続き関係機関と連携を図りながら切れ目のない支援に努めます。また、こどもの特性について、保護者と共通認識を持つとともに、適切な助言や支援を提供します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 持つ 育て たい 環境		
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校 期	青年・ 若者 期						
																	○				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
児童発達支援事業利用児数(延べ人数)	人	3,535						
療育発達相談件数	件	179						
できたこと(達成したこと)	初期療育機関として、健診や親子ひろばからすくすく親子教室へ切れ目なくつなぐことができた。また、発達が気になるこどもの保護者からの相談についてもニーズに応じた対応を行なった。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	親子ひろばの日程調整において、時期により希望に合わせにくいことがあった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		健診部門と連携のもとスムーズに親子ひろばやすくすく親子教室につなぐなど、健診後の切れ目のない支援を今後も進めていく必要がある。 発達状況や生活状況は年々多様化しており、様々なニーズに合わせた適切な支援・助言を行うため、職員のスキルアップを引き続き図る必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	発達に課題のある子どもに対する初期療育機関としての役割や切れ目のない支援について、これからも保護者が安心して子育てができる体制を整えていく。 親子ひろばを年間を通して利用しやすいよう、利用実績や予測を含めて、健診部門と共有・連携を図っていく。

計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇障害児・医療的ケア児の健やかな育ちの支援															
		①適切な療育・保育の提供															
担当課		発達支援課															
実施事業	事業No.	2202				事業名											
	SDGs																
				○													
	事業内容	重度の知的障害児等を含めた発達に支援が必要な子どもへの専門性に基づく支援や家族支援、地域の障害児通所支援事業所への相談や助言、地域のインクルージョンの推進等の障害児支援体制の充実を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		
																○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
通所支援合計利用者人数(延べ人数)	人	12,923						
地域支援相談件数	件	2,941						
できたこと(達成したこと)	児童発達支援センターとして早期療育の観点から、就学前施設や小学校等で支援が必要な子どもの状況を把握するため、試行的に公立施設への巡回を実施しニーズの把握に努め、事業としての有効性の確認を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	児童福祉法改正に伴う、児童発達支援センターが果たすべき事業所等への指導・助言等の役割については、スキル・マンパワーが不足しており十分に行えないことがある。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	・通所支援では、家庭の状況や都合により中長期的に欠席する園児が散見される。家族支援の観点から園児の支援のみならず家族の支援の必要性がある家庭が増加傾向にあり、支援の困難さが顕著化している。 ・地域支援相談件数の中でも一般的な相談の件数が増加しており、また、各種講座や事業所連携も担っていることから、障害児相談支援と保育所等訪問支援の業務を圧迫している。
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	・通所支援では、園児への支援に加え有識者意見の反映や他機関連携を活用し、その家族が抱える課題を把握してチーム的な対応を検討する。 ・関係機関との連携も図りつつ、地域支援内に統括的役割を担う人材や相談スキルのある職員の配置を検討するなど、児童発達支援センターの安定・発展的な運営を見据えた環境を構築する。
質的充実		

■計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児・医療的ケア児の健やかな育ちの支援 ①適切な療育・保育の提供

担当課		発達支援課																			
実施事業	事業No.	2203			事業名			児童発達支援センター（藍野療育園）の支援の充実、医療的ケア児の支援体制の構築													
	SDGs																				
				○																	
	事業内容	肢体不自由児等を含めた発達に支援に必要な子どもへの機能訓練等の専門性に基づく支援や家族支援、地域の障害児通所支援事業所への相談や助言、地域のインクルージョンの推進等の障害児支援体制の充実を図ります。また、医療的ケア児等コーディネーターを配置し、各関連分野の協働による包括的な支援体制の構築を図ります。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境	
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期					
																○					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
児童発達支援センター（藍野療育園）利用者数	人	85						
医療的ケア児等コーディネーター配置数	人	2						
医療的ケア児等コーディネーターの対応件数(のべ件数)	件	111						
できたこと(達成したこと)	国・府の補助金を活用し、児童発達支援センターの機能を充実させた。医療的ケア児等コーディネーターを配置し、関係機関を対象とした研修会等を実施し、医療的ケア児についての理解を深め、また、支援者の考えや支援の課題を共有した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	地域の保育所等に対して、研修等の機会を活用して、インクルージョンの重要性や取組について、さらなる周知を進めていく必要がある。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	医療的ケア児の支援は医療、福祉、教育など多分野にまたがっているため、支援体制を構築していくうえで、さまざまな立場の支援者の連携が必要である。
B		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、児童発達支援センターの機能強化に取り組み、支援体制の充実を図る。医療的ケア児については、多分野の支援者のそれぞれの役割や考えを踏まえながら、支援体制の整備に取り組んでいく。
継続		

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり																	
施策の方向		◇障害児・医療的ケア児の健やかな育ちの支援																	
		①適切な療育・保育の提供																	
担当課		保育幼稚園総務課																	
実施事業	事業No.	2204			事業名		障害児保育												
	SDGs																		
					○	○													
	事業内容	障害児保育の充実に向けて、人的・物的な環境整備を図るとともに、心理判定員の保育所等への定期的な巡回を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもを 育てたい 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
																	○		

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
心理士による延べ巡回日数	回	928						
できたこと(達成したこと)	私立幼稚園を中心に、これまで巡回依頼の無かった施設からの依頼を受けて巡回支援を開始し、相談・支援を実施できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	巡回対象者の増加により、巡回日程の調整が難しく、十分な対応ができなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	対象とする施設・児童が増加しており、心理士の体制を見直す必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後の対象者増加に対応できるよう、必要な体制を整える。

計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児・医療的ケア児の健やかな育ちの支援 ②ともに学び育つ教育の提供や障害に対する理解の促進

担当課		学校教育推進課																	
実施事業	事業No.	2205			事業名		支援教育												
	SDGs																		
					○						○								
	事業内容	障害のある児童・生徒一人一人が、地域の学校で地域の子どもたちと共に学ぶことを通して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服することができるよう、必要な支援や介助を行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたい
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																	○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
配置要綱に基づく支援学級への介助員の配置(小学生)	人	82						82
配置要綱に基づく支援学級への介助員の配置(中学生)	人	24						24
医療的ケアを要する児童生徒の在籍する支援学級への看護師の配置(小学生)	人	11						17
医療的ケアを要する児童生徒の在籍する支援学級への看護師の配置(中学生)	人	7						8
できたこと(達成したこと)	医療的ケアを必要とする児童・生徒に対して、看護師資格を有する医療介助員を配置することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	重度重複障害のある児童生徒に対して、より充実した介助員・医療介助員の配置や障害の状態に関する知識理解を深められる研修を進めていきたい。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A	取組における課題	重度重複障害のある医療的ケアを必要とする児童生徒へは医療介助員の確保に努めたことから複数名配置を実現することができた。引き続き、就学相談等で、学びの場や合理的配慮、指導・支援内容等について保護者との丁寧で建設的な話し合いをおこない、合意形成をはかっていく必要がある。

これからの取組

今後の方向性		就学相談ガイダンスや、個別に対応した就学相談を実施する。 保護者と教職員が特別の教育課程・自立活動等について相談し、児童生徒が最も伸長する学びの場を選択できるようにする。 本人・保護者の思いや学校の実態把握に基づく教育的ニーズをふまえて、介助員の適切な配置を行えるようにする。 介助員・医療介助員の採用に関する面接の精度向上にむけて、面接時の質問内容について整理、改善をR7年度より継続的に行う。 派遣看護師制度の必要性について、検討する。(胃瘻や導尿等、時間帯のみの医療的ケアについて)
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	

計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり																	
施策の方向		◇障害児・医療的ケア児の健やかな育ちの支援																	
		②ともに学び育つ教育の提供や障害に対する理解の促進																	
担当課		教育センター																	
実施事業	事業No.	2206			事業名		幼児に対することばの相談												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	ことばの遅れ、吃音、言語障害などことばの問題についての相談・指導を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
																	○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
ことばの教室相談・指導の実施(件数)	件	165						130
ことばの教室相談・指導の実施(回数)	回	907						750
できたこと(達成したこと)	ことばの遅れ、吃音、構音障害などことばの問題についての相談者のケースに応じた相談・指導を実施することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	引き続き目標を達成していく。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	複雑化・多様化するケースに応じた相談のスキルが必要である。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、相談者のニーズに応じた相談・指導を行い、相談員の専門性を高める研修を行っていく。

計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児・医療的ケア児の健やかな育ちの支援 ②ともに学び育つ教育の提供や障害に対する理解の促進

担当課		学童保育課																		
実施事業	事業No.	2207			事業名		学童保育室での障害のある児童の受入													
	SDGs																			
												○								
	事業内容	児童の障害の程度や発達状況等、個々の状況に応じた支援を行うため、指導員の配置や設備改修等を行います。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																○				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
障害児の入室児童数	人	62						
できたこと(達成したこと)	学童保育室の利用を希望するすべての支援が必要な児童の受け入れを行うことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	利用ニーズの高まりに伴い、必要な支援も多様化しているため、医療的ケアなどに対応できるよう指導員の配置や設備の改修が必要である。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	・医療的ケアなど、多様化する支援に対応するために、学童保育室への医療介助員の配置を検討する。 ・児童の障害の程度や発達状況等、個々の状況に応じた支援を行うために、設備の改修等を行う。 ・課題のある児童への対応スキルを向上させるため、児童発達支援センターの派遣研修や放課後等デイサービス事業者等との意見交換を行う。

計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児・医療的ケア児の健やかな育ちの支援 ②ともに学び育つ教育の提供や障害に対する理解の促進

担当課		障害福祉課																	
実施事業	事業No.	2208			事業名		理解促進研修・啓発												
	SDGs																		
					○						○								
	事業内容	障害を理由とする差別の解消や合理的配慮の提供等について、市民や事業者が理解を深めるための研修会やイベント、啓発活動などを実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																	○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
理解促進研修・啓発事業	有・無	有						
できたこと(達成したこと)	夏休み子ども手話教室を5日間開催した。 障害のある人もない人も共に生きるまちづくり条例の中学生版リーフレットを配布した。 「おにも見にクルアート展」を開催した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	手話教室の応募者が多く受講できなかった方が多数いた。 障害者理解促進事業補助金について、より効果的なものになるよう対象要件等の見直しを検討したが、制度見直しに至らなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	手話教室・アート展の開催、リーフレットの開催で、多くの学ぶ機会を提供することができたが、障害者理解促進事業補助金について、制度見直しに至っていない。
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	障害理解促進事業補助金について、対象者要件や講師リストの活用方法を見直し、より効果的なものとなるよう検討する。
継続		

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり																	
施策の方向		◇障害児・医療的ケア児の健やかな育ちの支援																	
		③障害福祉サービス等の提供																	
担当課		発達支援課																	
実施事業	事業No.	2209			事業名		障害児通所支援												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	障害児通所支援の提供体制が充実するように、多様なニーズに対応できる総合的な支援を提供する事業所等の参入の促進を図ります。また、必要とする利用者に障害児相談支援が提供できるよう相談支援専門員の確保を図ります										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																○			

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
児童発達支援支給決定者数	人	895						
放課後等デイサービス支給決定者数	人	1,264						
保育所等訪問支援支給決定者数	人	239						
居宅訪問型児童発達支援支給決定者数	人	2						
障害児相談支援支給決定者数	人	293						
※年度末時点の各サービスの支給決定者数								
できたこと(達成したこと)	事業所の総合的な支援に繋がるよう、事業所に対して報酬改定に伴う個別支援計画作成にあたっての国からの留意点の周知や、個別支援計画作成について意見交換の場を設けた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	相談支援専門員の不足により、障害児相談支援については十分な提供体制がとれなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	障害児相談支援については、障害児通所支援の利用者の増加や相談支援専門員の不足により十分な提供体制が取れていない。
B		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	公表される事業所ごとの支援プログラムの周知により、事業所の総合的な支援の実施を進めていく。障害児相談支援については、新規計画作成に対する補助金を増額し、普及促進に努める。また、「複数の事業所を併用する場合」や「医療的ケア児などのケアニーズが高く、多機関連携で支援にあたる場合」等の支援のコーディネートが行われる必要性が高い場合には、相談支援事業所による支援が行われるよう留意していく。
継続		

計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児・医療的ケア児の健やかな育ちの支援 ③障害福祉サービス等の提供

担当課		発達支援課、障害福祉課																	
実施事業	事業No.	2210			事業名		自立支援・地域生活支援												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	利用者の心身の状況、置かれている環境等を踏まえながら、利用者に応じたサービスが公平かつ適切に提供されるよう取り組みます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																	○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
【自立支援給付】居宅介護	人/月	22						
【自立支援給付】短期入所	人/月	38						
【地域生活支援事業】移動支援	人/年	53						
できたこと(達成したこと)	障害のある児童や発達に課題のある児童に対して、支給決定基準に沿って、概ね適切にサービスを提供することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	サービスの支給決定にあたっては、児童の状況を正しく把握し、今後も一人ひとりの状況に応じた支給決定となるよう適切に判断する必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、保護者、支援者から児童の状況を丁寧に聞きとり、支給決定基準に沿って、適正にサービスの支給決定をおこなっていく。

■計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児・医療的ケア児の健やかな育ちの支援 ④経済的支援

担当課		学校教育推進課																			
実施事業	事業No.	2211			事業名			支援学級等就学奨励													
	SDGs																				
		○			○																
	事業内容	市立小・中学校の支援学級等に在籍している児童生徒の保護者に対して、経済的な負担を軽減するために、学用品費等の費用の一部を支給します。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 持てる環境	
													妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期					
																	○				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
支給決定児童生徒数	人	854						
できたこと(達成したこと)	援助費を適正に支給し、保護者の経済的負担を軽減した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	特になし。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、引き続き周知に努める。 申請方法や申請書様式について、より保護者が理解しやすいよう改善に努める。 電子申請の導入を進める。

■計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇児童虐待防止対策の強化

担当課		子育て支援課																		
実施事業	事業No.	2301			事業名		児童虐待の予防及び児童虐待の早期発見・早期対応のための体制整備													
	SDGs																			
				○																
	事業内容	母子保健事業と子育て支援事業の一体的な提供により、児童虐待の未然防止・早期発見に努めます。児童虐待事案に対し早期対応と早期支援を行えるよう、関係機関と連携した支援体制の充実を図ります。また、「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」等を通して、啓発活動を引き続き実施し、地域での見守り活動の推進を図ります。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもをもち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																○				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン	回	1						
関係機関向け児童虐待対応研修	回	2						
できたこと(達成したこと)	関係機関向けに研修を実施することにより、児童虐待対応に対する共通認識を深めるとともに連携の充実を図ることができた。また、オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンを通して児童虐待防止の啓発を実施し、市民の認知度向上に努めた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	引き続き、通告の意義等の理解が広がるよう啓発活動を継続する。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	啓発活動の効果を計ることが困難である。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンを通して啓発活動を行うとともに、より効果的な方法を検討する。

計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇児童虐待防止対策の強化

担当課		人権・男女共生課																	
実施事業	事業No.	2302			事業名		面前DVの防止及び被害者の支援												
	SDGs																		
				○		○													
	事業内容	心理的児童虐待にあたる面前DVの防止に努めるとともに、被害者・被害児童が安心して暮らせるよう支援します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																○			

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
DVに関する相談件数	件	1,017						
できたこと(達成したこと)	DV相談の中で面前DVに関わる事案と認められた場合は関係部署と緊密に連携して対応することとした。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特に面前DVを取り上げての啓発は行っていない。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	DV相談として対応している中で面前DVの可能性を察知できるよう知識の習得やスキルの向上を図る必要がある。
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	DV相談の中で面前DVに関わる事案と認められた場合は関係部署と緊密に連携して対応する。
継続		

■計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇児童虐待防止対策の強化

担当課		子育て支援課																		
実施事業	事業No.	2303			事業名		子育て世帯訪問支援事業													
	SDGs																			
		○		○																
	事業内容	家事・子育てに不安や負担を抱える妊産婦や子育て家庭に、訪問支援員を派遣し、家事・育児等の支援を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境	
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期					
																○				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
利用回数	回	20						278
できたこと(達成したこと)	定期的に家事・育児等の支援を実施することにより、子育て家庭の負担感の軽減を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	支援の受け入れに抵抗感のある家庭では、本事業の利用に繋がらないケースがある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、本事業の導入にあたり事業説明を丁寧に行い、子育て家庭等の負担軽減を図っていく。

計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇外国人など配慮が必要な家庭への支援

担当課		学校教育推進課																		
実施事業	事業No.	2401			事業名		帰国・渡日の児童・生徒への支援													
	SDGs																			
					○							○								
	事業内容	帰国・渡日の児童・生徒が習得している貴重な文化体験、母語を生かし、社会で生きる力を育むための学級を開講するとともに、日本語の理解が困難な児童・生徒に授業通訳を派遣します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境	
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期					
															○					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
適応指導教室授業通訳利用回数	回	2,497						2,800
通訳を受けている児童・生徒数	人	24						35
できたこと(達成したこと)	学校と連携して児童・生徒の状況を共有し、児童生徒が日本の学校での生活に困らないよう通訳者を派遣し支援することができた。通訳を必要とする児童生徒の学力・進路保障の役割を果たした。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	日本語をほとんど理解できていない外国人児童・生徒が毎年転入しており、渡日直後の児童生徒の集中的な支援を含め、学校からの通訳者派遣の要請数が増加しているが、すべての要望に応えることはできなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A		
		通訳を必要とする児童生徒が増加傾向であり、急遽の転入も多いため、現状の週2日、各2時間の派遣では、授業内容の理解を十分補助することが難しく、時間増の依頼が増えている。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	過去3年程度の外国人児童・生徒の転入数を調べ、転出入の傾向をつかみ、十分な支援予算の増額を申請する。

計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇外国人など配慮が必要な家庭への支援

担当課		人権・男女共生課																	
実施事業	事業No.	2402			事業名		外国人総合相談												
	SDGs																		
				○							○								
	事業内容	外国人や外国にルーツを持つ人等を対象とした、暮らしや文化、行政手続き等に関する総合相談窓口を設置し、外国人住民の日常生活を支援します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
															○				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
相談件数	件	58						300
できたこと(達成したこと)	本庁に外国人総合相談窓口を開設し、庁内外への周知を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	相談件数が少なかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
C	取組における課題	相談件数が少ないのは、窓口の周知不足のためと考えられる。今後、サービスを必要とする人に相談窓口の存在を知ってもらえるよう、さらなる周知を図る必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	窓口のさらなる周知のため、ちらし・カードの配布、ホームページ、SNS等をはじめ、関係機関への情報提供など、さまざまな周知方法を工夫しながら行っていく。

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇こどもの貧困の解消に係る対策															
		①教育の支援															
担当課		生活福祉課															
実施事業	事業No.	2501		事業名		こどものいる生活保護世帯に対する扶助費等の支給											
	SDGs																
		○															
	事業内容	こども(小学生～高校生)のいる生活保護世帯に対し、必要に応じて教育扶助、高校就学費用、進学・就職準備給付金を支給します。								ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたい
										妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
														○			

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
生活保護世帯において、教育扶助が必要な場合に支給。	世帯	104						
生活保護世帯において、高校就学費用が必要な場合に支給。	世帯	52						
生活保護世帯において、進学・就職準備給付金が必要な場合に支給。	世帯	4						
できたこと(達成したこと)	生活保護世帯において、教育扶助、高校就学費用、進学・就職準備給付金が必要な場合に支給した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	特になし。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、生活保護世帯に対する教育扶助、高校就学費用、進学・就職準備給付金を必要に応じ適切に支給していく。

■計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇こどもの貧困の解消に係る対策
	①教育の支援

担当課		学校教育推進課																	
実施事業	事業No.	2502			事業名		ゆめ実現支援事業												
	SDGs																		
		○			○						○								
	事業内容	子どもたちが経済的理由で進学をあきらめることがないよう、継続して各種奨学金の紹介や相談業務を行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																○			

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
情報提供者数	人	163						200
できたこと(達成したこと)	年間を通じた、説明会をの開催や情報提供、個別相談を実施できた。また、中学3年生へ(夢を実現する奨学金)冊子を配付できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	外国籍保護者からの相談や進路相談が中が校でどのように進められているか連携が必要である。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	相談内容をもとに学校と連携をしっかりとる必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	どのような相談内容が多かったか分析し、ニーズに応じた説明会を8月に実施する。

計画

施策の展開	社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇こどもの貧困の解消に係る対策
	②生活支援

担当課		福祉総合相談課																	
実施事業	事業No.	2503			事業名		生活困窮者自立支援事業												
	SDGs																		
		○		○		○					○								
	事業内容	経済的に困窮している方(世帯)のみならず、複合的な課題を抱え困っている方(世帯)に対して、対象者とともに自立に向けた具体的なプランを作成し、関係機関との連携を図りながら、伴走型の支援を行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
相談受付件数	件	762						900
できたこと(達成したこと)	経済的な問題のみではなく、多岐にわたる複合的な課題を抱えている相談者に対して継続的な支援を実施した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新規相談件数としては減少傾向にあり、目標値を下回った。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) - :活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	支援を必要とする人に情報が届いておらず、潜在的なニーズの把握ができていない可能性がある。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	他機関と連携を行い、支援に繋がっていない対象者の掘り起こしを行い、適切な支援に繋げる。

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇こどもの貧困の解消に係る対策															
		②生活支援															
担当課		人権・男女共生課															
実施事業	事業No.	2504		事業名		いのち・愛・ゆめセンター相談事業											
	SDGs																
		○		○	○						○	○					○
	事業内容	学校との連携について協議を実施します。また、モデル的な取組として、子どもを対象としたコミュニケーション講座の実施や居場所づくりについて取り組み、令和9年(2027年)までの4年間で実施、評価を行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		
																○	

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
相談件数	件	1,667						2,200
できたこと(達成したこと)	学校やユース・プラザ等、地域の関係機関と連携し、居場所の提供や相談支援に取り組むことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	子ども向けに特化したコミュニケーション講座までは実施できなかった。また、子どもや若者の置かれている状況を把握するのに時間を要したり、困難なケースがあった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	子どもや若者の家庭環境や背景を把握するためには、対象者との関係づくりや居場所としての環境整備が課題である。
B		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	センターを利用することも・若者との関係づくりや安心して過ごせる居場所となるよう、引き続き取り組む。
継続		

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇こどもの貧困の解消に係る対策															
		②生活支援															
担当課		生活福祉課															
実施事業	事業No.	2505		事業名		生活保護世帯に対する健康管理支援											
	SDGs																
		○		○													
	事業内容	生活保護受給者において、健康管理支援が必要な場合に実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
																○	

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
生活保護世帯において、健康管理支援が必要な場合に実施。	人	86						
できたこと(達成したこと)	こども・若者がいる生活保護世帯において、必要に応じて健康管理支援員が支援を実施した。 また、令和4年度から令和6年度までケースワーカーを中心に小・中学生のいる世帯にこどもの生活に関するアンケートを実施し支援の必要性の確認や生活保護世帯の現状把握ができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
 A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	生活保護世帯は複合的な問題を抱えている世帯も多いため、色々な部門で丁寧に関わる必要がある。また、健康的な生活に関心のない世帯も多く、支援を希望されない場合や、助言等を行っても生活等の改善や問題解決に至らない世帯もある。
B		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、ケースワーカーや関係機関と連携しながら必要に応じて健康管理支援を行う。
継続		

計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり																	
施策の方向		◇こどもの貧困の解消に係る対策																	
		②生活支援																	
担当課		生活福祉課																	
実施事業	事業No.	2506			事業名		生活保護世帯の小中学生と養育者に対する食育支援の実施												
	SDGs																		
		○		○															
	事業内容	生活保護世帯の子ども(小学生～高校生)とその養育者を対象に、健康教育(調理実習を含む)を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
																	○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
生活保護世帯において、食育支援が必要な場合に実施。	人(延)	17						
できたこと(達成したこと)	2回開催のうち、1回はおにクルで実施したことで、自主的な参加希望者が増え、定員以上の参加となった。また、健康教育(調理実習を含む)を実施することで、料理や食への関心を持つ子どもが増えた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	料理の工程が難しく、軽いやけどをした子どももいたため、より安全に実施できるよう配慮していく必要がある。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		毎年、参加を楽しみにしている世帯もあるが、一度も参加したことのない世帯や、参加勧奨を行っても興味・関心のない世帯も多くあるため、開催案内の送付だけでなく、電話等で参加勧奨を引き続き行う必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、関係機関と連携し、生活保護受給者の子どもたちが食に関心を持ち、健やかに育ち、自己肯定感を高めるきっかけの1つになるように継続的に実施していく。

計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇こどもの貧困の解消に係る対策															
		③就労支援															
担当課		福祉総合相談課															
実施事業	事業No.	2507		事業名		生活困窮者自立支援事業における就労支援											
	SDGs																
		○		○		○					○						○
	事業内容	ハローワークと連携を図り、就職活動に不安や課題のある方に対して就労支援を行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	社会的支援	環境づくり
																○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
就労支援対象者数	人	36						110
できたこと(達成したこと)	就労を希望する方に対して必要な支援を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	新規相談件数の減少と、就労だけでなく複合的課題を抱える対象者が多いことから就労支援対象者数が目標値を下回った。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
	取組における課題	就労だけでなく複合的な課題を抱え、課題解決に時間を要する状況があり、ハローワークにつなげることが難しい対象者が多数存在している。

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	日々の相談支援において関係機関と連携し、適切な支援を行い、対象者の就労意欲を高めていく。
継続		

計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり																	
施策の方向		◇こどもの貧困の解消に係る対策																	
		③就労支援																	
担当課		福祉総合相談課																	
実施事業	事業No.	2508			事業名		生活困窮者自立支援事業における就労準備支援												
	SDGs																		
		○		○		○					○							○	
	事業内容	さまざまな課題を抱える方が一般雇用などに移行できるよう、庁内職場実習やスマイルオフィスでの雇用を通じて中間的就労の機会を提供しています。この事業では、就労意欲を高め、作業スキルを向上させるとともに、就労に向けた段階的な支援を行います。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい 環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																	○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
スマイルオフィス利用者の就職率	%	70						60.0
庁内職場実習利用者数	人	30						40
できたこと(達成したこと)	各対象者の適性に応じた支援を実施することにより、目標値を上回る就職率を達成することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	庁内職場実習利用者数が目標値を下回った。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	スマイルオフィス利用者の就職率に関しては、目標値を上回る成果を達成することができた。しかし、庁内職場実習の利用者数については、推薦機関への周知不足からか、結果として利用者数が目標値を下回っている。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	推薦機関からの聞き取りを行い、庁内職場実習利用希望者の特性を把握したうえで、庁内職場実習受入課の業務内容と調整を行い、可能な限り実習の受入を行う。 また、適切な方を庁内職場実習利用に繋げるため、推薦機関への事業概要の周知をより徹底して行う。

計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり															
施策の方向		◇こどもの貧困の解消に係る対策															
		④経済的支援															
担当課		こども政策課															
実施事業	事業No.	2509		事業名		大学奨学金利子補給											
	SDGs																
				○													
	事業内容	市民が大学等を卒業した後に抱える奨学金返済の負担を軽減し、若者の市内への流入と定住促進を図るため、奨学金の利子相当額(上限2万円)を10年間給付します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		
																○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
継続受給率	%	67.0						80.0
できたこと(達成したこと)	大学奨学金利子補給対象者へのアンケート結果では、利子補給を受けることによって、茨木市への定住意向率が96.6%となっている。 また、事務処理を適切に行えるよう、Accessの使用マニュアルを作成した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	事業開始から10年が経過し、社会情勢の変化等により、新規申請者及び平均利子額が減少傾向にある。

これからの取組

今後の方向性		
質的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	新規申請者及び平均利子額が減少傾向にある原因など、現状の課題の洗い出しを行う。

■計画

施策の展開		社会的な支援が必要な子ども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり																	
施策の方向		◇ヤングケアラーへの支援																	
担当課		こども政策課																	
実施事業	事業No.	2601		事業名		ヤングケアラーの支援													
	SDGs																		
		○		○															
	事業内容	ヤングケアラーコーディネーターを配置し、子どもとその家族、市民及び関係機関等の支援者からの一元的な相談窓口を設け、ケースに基づき適切な窓口や支援機関の紹介、見守りなどを行います。また、ヤングケアラーの孤立を防ぐとともに、支援の充実を図るため、共感の場となるピアサロンなど、ケアから離れて「ホッ」とできる安心の場の提供を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもを持ち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																	○		

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
ヤングケアラー、もしくはその疑いのあるケースを把握している件数	件	82						100
できたこと(達成したこと)	ヤングケアラーコーディネーターが地域支援者等と連携し、支援が必要なケースとつながることができた。また、ヤングケアラーや元ヤングケアラーが集えるピアサロンを実施し、生活支援や体験活動を行うことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	ピアサロンのさらなる需要があることから、ピアサロンの拡充及びレスパイトイベントの実施が求められている。

■これからの取組

今後の方向性		
量的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、対象家庭を適切な支援につなげられるよう、関係支援者と連携して対象家庭等との関係性を保つ。 また、令和7年度中にピアサロンを拡充するとともにレスパイトイベント等を実施することで、支援の充実を図る。

計画

施策の展開	社会的な支援が必要なこども・若者や子育て家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ヤングケアラーへの支援

担当課		こども政策課																		
実施事業	事業No.	2602			事業名		ヤングケアラー家庭への家事等支援													
	SDGs																			
		○		○																
	事業内容	家事・子育てに不安や負担を抱えるヤングケアラーのいる家庭に、訪問支援員を派遣し、家事・育児等の支援を実施します。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																○				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
利用回数	回	0						268
できたこと(達成したこと)	支援者への事業周知ができた。また、本事業の導入を検討した結果、地域支援者等とつながり、障害福祉サービスなど適切な支援につなげることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	利用に至る家庭がなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
-	取組における課題	支援の受け入れに抵抗感のある家庭など、本事業の利用に至らないケースがある。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	対象となる家庭に適切な支援が導入できるよう、引き続き支援者に事業を周知し、導入にあたっての連携がとれるよう関係性を築く。

計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇子ども・若者が権利の主体であることの共有

担当課		こども政策課、子育て支援課																	
実施事業	事業No.	3101			事業名		こどもまんなか 児童福祉週間(5月5日～11日)の普及啓発												
	SDGs																		
					○														○
	事業内容	児童福祉の理念の一層の周知と子どもを取り巻く諸問題に対する社会的関心の喚起を図るため、こどもまんなか児童福祉週間の期間中に、広報への啓発記事の掲載のほか、ポスター等による広報活動や子育てに関する相談窓口を身近に感じてもらえるような取組を推進します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 持てる環境
	妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期															
																	○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
広報誌による周知回数(年間)	回	1						2
できたこと(達成したこと)	広報いばらき5月号に啓発記事を掲載し、こどもまんなか社会について、市民へのさらなる周知・啓発に努めた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	広報誌掲載以外の方法での周知ができなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	周知による効果が見えにくいことや、周知に対する市民ニーズと費用対効果のバランスが難しい。

これからの取組

今後の方向性		
量的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	市民が様々な機会に「こどもまんなか社会」を知ることができるよう、広報誌だけでなく「懸垂幕」を作成し、一定期間市役所に掲示する。 また、今後は「こどもまんなか社会」の実現をめざすことから、こどもの意見を直接聞くことができる機会の創出に努める。

■計画

施策の展開	社会全体でこども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇こども・若者が権利の主体であることの共有

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	3102			事業名		こどもの権利に関する啓発・普及												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	学習会の開催やパンフレットの配布等を通じ、児童を含めた幅広い世代に向けて「児童の権利に関する条約」の啓発・普及を実施します。また、SNSなども活用し、より多くの市民に周知します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたい
											妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期					

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
児童の権利に関する条約の周知		-						継続
できたこと(達成したこと)	子育てハンドブックへの掲載により、市民への周知に努めた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	一定の情報発信を行うことはできたが、どの程度認知度の向上につながったか把握できない。
B		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き多くの市民へ上記の啓発活動を継続しつつ、より効果的な啓発方法がないか検討する。
継続		

計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇社会参画や意見表明の機会の充実

担当課		市民生活相談課																		
実施事業	事業No.	3201			事業名		次なる茨木ミーティング													
	SDGs																			
				○									○					○	○	
	事業内容	若者世代が市政に関する意見を発言できる場を設け、理解や関心を深めてもらうとともに、若者世代の意見を市政にいかしていきます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもをもち育てたいと思える環境	
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期					

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
次なる茨木ミーティング開催回数	回	2						2
できたこと(達成したこと)	市政への理解や関心を深めてもらうことができた。また、ミーティングで出た意見を反映することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	より活発に意見交換できるよう、実施方法、テーマ設定を工夫する必要がある。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A		

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	若者世代にとって関心の高いテーマを選ぶとともに、テーマ担当課と連携し、ミーティングで出された提案の実現に努めていく。

■計画

施策の展開		社会全体でこども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり															
施策の方向		◇包括的な支援ネットワークの充実															
担当課		福祉総合相談課															
実施事業	事業No.	3301			事業名		包括的支援体制の推進										
	SDGs																
		○		○		○					○						○
	事業内容	住民がより身近な地域で相談できるように、コミュニティソーシャルワーカー、障害者相談支援センター、地域包括支援センターを14のエリアごとに整備するとともに、圏域ごとにエリアをとりまとめる地区保健福祉センターを整備します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		
																○	

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
地区保健福祉センター	か所	4						5
できたこと(達成したこと)	北保健福祉センターの設置場所が決定し、令和7年度開設に向けて準備を進めている。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	包括的な支援ネットワークの充実のためには、地域住民等や関係機関との調整・合意形成が必要不可欠であるため、信頼関係構築が求められる。

■これからの取組

今後の方向性		
量的・質的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	地域住民等と関係機関に理解と協力を得られるように、地域に根差した取り組みを行っていく。重層的支援体制として有機的連携を深め、地域における包括的な支援拠点としての役割を果たしていく。

計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇包括的な支援ネットワークの充実

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	3302			事業名		子育て支援団体のネットワーク化												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	身近な地域で子育てを支えるため、地域子育て団体と連携を図り、地域ごとの子育て支援マップを作成するなど、地域情報の共有・発信と団体間の交流を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																	○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
連絡会開催回数	回	10						20
できたこと(達成したこと)	5地区とも予定していた子育て支援団体連絡会を年2回開催し、地域子育て団体が集まって地域の情報共有・発信を行うことができた。地域ごとのマップの見直しを年1回行い、情報更新や利用者により見やすいマップ作りをした。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		コロナ禍は開催中止になったり、再開後も参加する団体が減っていたが、参加団体数が戻り情報共有や支援団体との連携に繋がった。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き地域の子育て支援団体との連携を利用者支援を中心に行い、団体との交流を深めていく。

計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇包括的な支援ネットワークの充実

担当課		子育て支援課																		
実施事業	事業No.	3303			事業名		子育て支援活動の活性化													
	SDGs																			
				○																
	事業内容	子育て支援活動の輪を一層広げるため、子育てに関するイベントの企画運営にチャレンジしたい市民の伴走支援や、おもちゃの貸出しなどのサポートを行います。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																	○			

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
活動支援回数	回	9						100
できたこと(達成したこと)	令和6年度から「わっくるチャレンジ応援事業」を新たに実施し、親子で楽しめるイベントを主体となって企画・実施する市民等と共創し子育て支援を推進することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	子育て支援に携わりたい市民・団体等に幅広く事業の周知をしていく必要がある。
B		

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、わっくるチャレンジ応援事業を通して市民等と共創するとともに、より効果的な方法を検討する。
継続		

■計画

施策の展開		社会全体でこども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり																	
施策の方向		◇包括的な支援ネットワークの充実																	
担当課		こども政策課																	
実施事業	事業No.	3304			事業名		こども食堂への支援												
	SDGs																		
		○	○	○															
	事業内容	こどもに家庭的な雰囲気の食事と学習や交流の場を提供する団体を支援します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																○			

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
運営事業補助団体数	団体	16						21
できたこと(達成したこと)	こども食堂開催に係る報償金支給がこども食堂の持続的な運営の一助となり、寄付で賄うことができない食材の購入費等に充てることができた。 また、食材や現金の寄付、ボランティアなど、こども食堂への応援を募るため、チラシを市の所管施設や大学等へ配布した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A		
		こどもの貧困や孤食解消の一助として、市内20団体29カ所(令和7年3月時点)が市ネットワークに加入してこども食堂を運営しているが、ボランティアの協力や食材の寄付等をもって運営しているため、財政的に厳しい状況である。

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	
継続		
		引き続き、こども食堂への応援を募るチラシを市民や事業者等に配布し、こども政策課が窓口となって寄付を受け付けることで、こども食堂の持続的な運営をサポートする。

計画

施策の展開	社会全体でこども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇包括的な支援ネットワークの充実

担当課		子育て支援課																	
実施事業	事業No.	3305			事業名		子育て支援の人材育成												
	SDGs																		
					○														
	事業内容	地域における子育て支援活動の活性化のため、子育てにかかる幅広いジャンルの研修を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
													○				○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
研修参加者数	人	286						500
できたこと(達成したこと)	子育て支援に必要な情報を幅広く、支援者に伝えることができ、オンラインも取り入れ、参加しやすい環境を整えた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A		
		子育て支援に必要な情報を幅広く、支援者に伝えることができ、オンラインも取り入れ、参加しやすい環境を整え、アンケートでの評価も概ね満足のいくものであるとの回答であった。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き研修内容を精査して実施し、対面での実施要望が多いので、来年度以降は対面での研修を基本とする。

■計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇活躍できる機会づくり

担当課		子育て支援課																		
実施事業	事業No.	3401			事業名		学生と連携した子育て支援													
	SDGs																			
																			○	
	事業内容	学生の持てる能力を活かして子育て支援に携わることのできる機会を設け、学生がそれにチャレンジすることを通じて成長・活躍できる環境づくりに向けて、市内の学校とも連携を図りながら取り組みます。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもをもち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
学生との連携	回	1						
できたこと(達成したこと)	立命館大学の学生メディア団体syumirun!と連携し、こども支援センターの情報発信を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
C	取組における課題	学生との継続的な連携方法について、検討をする必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、学生との連携について検討していく。

計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇犯罪などから子ども・若者を守る取組

担当課		道路課																		
実施事業	事業No.	3501			事業名		道路(歩道)の整備													
	SDGs																			
													○							
	事業内容	通学路や生活道路において、歩車分離を図り、歩行者の安全を確保するとともに、子育て中の親子や高齢者、障害者が安全かつ円滑に移動できるよう歩道の段差解消や改良を行います。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい
													妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
													○	○	○		○			

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
歩道改良工事の実施	m	282						600
できたこと(達成したこと)	学校周辺において歩道整備を実施したことにより、歩行者の安全を確保できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	用地買収を進めるにあたり、地権者合意が得られず、未整備の部分がある。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	周辺住民の事業に対する理解・協力を得る必要がある。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	継続的に周辺住民への丁寧な説明を心掛け、歩道整備を推進する。

■計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇犯罪などから子ども・若者を守る取組

担当課		公園緑地課																		
実施事業	事業No.	3502			事業名		公園等の整備及び維持補修													
	SDGs																			
													○							
	事業内容	多岐にわたるニーズに対応するため、引き続き地域との協議を丁寧に行います。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもをもち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
遊具の更新・設置を行った公園数	か所	5						3~5
できたこと(達成したこと)	遊具の更新・設置を行った公園数の目標を達成した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	特になし。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き目標を達成できるように業務を行う。

計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇犯罪などから子ども・若者を守る取組

担当課		交通政策課																	
実施事業	事業No.	3503			事業名		交通安全啓発・指導												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	交通安全教室を市内の幼稚園や保育所、小・中・高等学校で実施します。また、体験型の教室を実施するほか、自転車乗車時におけるヘルメット着用の推進等を図ります。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
	妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期															
																	○		

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
交通安全教室の実施回数	回	119						120
できたこと(達成したこと)	未就学児から高校生まで、実地指導を中心に実施できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	高等学校からの受講希望が少なかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	B	取組における課題	未受講の施設に対し、当事業の重要性について、引き続き周知する必要がある。

これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	当事業への理解と重要性について、引き続き周知する。
継続		

■計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇犯罪などから子ども・若者を守る取組

担当課		危機管理課																		
実施事業	事業No.	3504			事業名		防犯に関する広報・啓発													
	SDGs																			
																		○		
	事業内容	子どもが安全に暮らせる地域づくりのために、警察や関係団体、地域住民と連携した防犯に関する広報・啓発を実施します。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもをもち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																		○		

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
警察や関係団体と連携した啓発行事の実施	回	1						2
防犯協会への青色防犯パトロール車の貸与	台	6						6
できたこと(達成したこと)	防犯協会活動の支援や防犯協会及び茨木警察署との連携した防犯啓発に関する取組、地域による青色防犯パトロール活動の支援を行うことにより、本市の犯罪件数の減少につなげている。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	防犯協会の会員が高齢化し、青色防犯パトロール活動の担い手が今後不足していくことが懸念されている。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	防犯協会を通して地域の防犯活動を支援し、防犯パトロール活動に必要な車両の整備、更新を年次的に進めていく。 また、青色防犯パトロール活動の担い手については、防犯協会と連携し、各種団体等に対して活動の周知を図るとともに、参加を促進する。 さらに、青色防犯パトロールに限らず、他の効果的な防犯活動の手法についても検討を進める。

計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇犯罪などから子ども・若者を守る取組

担当課		危機管理課															
実施事業	事業No.	3505	事業名		防犯カメラ設置補助												
	SDGs																
	事業内容	屋外の公共空間で発生する子どもや女性への犯罪の抑止を図るため、防犯カメラを設置する自治会等に対し、補助金を交付します。								ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもをもち育てたい
										妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
防犯カメラ設置事業補助金	台	18						20
できたこと(達成したこと)	防犯カメラ設置補助制度を活用して、自治会により新たに18台の防犯カメラが設置された。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
A	今年度は申請にかかる自治会等の負担軽減を図るため、庁内関係課と連携し手続き方法の見直しや説明会を欠席した自治会に対し個別での説明を行った。 今後も本補助金をできる限り活用してもらうため、手続き方法の見直しや簡略化を進めていく。	

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	申請にかかる手続きの周知や申請にあたって関係機関と連携を図るなど、引き続き自治会等の負担軽減につながる簡素化、効率化に努める。

計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇犯罪などから子ども・若者を守る取組

担当課		危機管理課																		
実施事業	事業No.	3506			事業名		啓発冊子(防災ハンドブック)作成配布													
	SDGs																			
													○							
	事業内容	防災ハンドブックの内容を見直し、市民にとってより分かりやすい内容となるよう情報の充実を図ります。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	子どもをもち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
防災ハンドブックの配布数	冊	6,050						9,000
できたこと(達成したこと)	ニーズに合わせて、研修会等の機会に防災ハンドブックを配布した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	令和5年度と比較し、配布機会は増えたものの、配布数は減少した。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B	市ホームページに掲載しているPDF データについては、仕様の問題からページごとに分割して掲載する必要があり、配布方法について今後見直しが必要である。	

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	地震防災マップと合わせて、防災ハンドブックの内容や配布方法について令和9年度以降に見直しを行う。

計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇犯罪などから子ども・若者を守る取組

担当課		学校教育推進課																
実施事業	事業No.	3507			事業名		児童・生徒の安全対策											
	SDGs																	
												○						
	事業内容	こども見守り隊は、毎年6月に市の広報誌・HPに挙げて募集するとともに、学期ごとに学校運営協議会で学校安全(登下校)について議題にあげながら、登下校の協力を求めています。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる
	妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期														

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
こども見守り隊の人数	人	863						900
できたこと(達成したこと)	見守り隊の方もいることから、防犯の観点・事故防止の観点からも、安心・安全な街づくりにつながられている。地域と学校とが協力して活動することにより、子どもたちの安心につながっている。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	見守り隊のメンバーの減少が年々進んでいる中、多様な方々に関わっていただく体制をつくることがまだできていない。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
	見守り隊を募集し、配置することにより、子どもたちの安全確保は現段階ではできているものの、見守り隊のメンバーの減少が年々進んでおり、今後、さらに広く募集していく必要がある。	

これからの取組

今後の方向性		
量的充実	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	子どもたちの安全を守っていくために、6月に市の広報やHPに挙げ募集するとともに、学期ごとに学校運営協議会で学校安全(登下校)について議題にあげてもらいながら、登下校の協力を求めている。登下校の安全について、情報共有ができる仕組みをつくり、見守り隊への参加や、保護者が中心となって子どもたちの安全を行っている取り組みなどを発信するようにする。保護者の安全に対する意識を高めるために、保護者啓発につながる資料を学校へ周知していく。

■計画

施策の展開	社会全体で子ども・若者や子育て家庭を支援できる環境づくり
施策の方向	◇犯罪などから子ども・若者を守る取組

担当課		健康づくり課																	
実施事業	事業No.	3508			事業名		こころの健康相談												
	SDGs																		
				○															
	事業内容	若年層への相談体制の充実と相談窓口情報等の分かりやすい発信に努め、自殺予防週間や自殺対策強化月間に啓発活動を強化します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 育てたい と思える 環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
																	○		

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
集中的な相談窓口の啓発活動の実施	回	2						2
できたこと(達成したこと)	自殺予防週間や自殺対策強化月間に合わせて、市内小学校及び中学校向けに相談窓口情報が記載されたチラシ配布、ポスター掲示により周知・啓発を行った。 また相談窓口情報やこれらの積極的利用について、市広報誌や市公式SNSにより周知・啓発を行った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特記なし							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	
B		
		9月の自殺予防週間に向けた啓発活動については、長期休暇の時期も考慮し、自殺予防週間に先駆けて実施することが効果的であると考えられることから、自殺リスクが高まる夏期休業期間の前から相談窓口の周知・啓発が必要である。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	9月の自殺予防週間、3月の自殺対策強化月間に合わせて啓発の強化、相談体制の強化に取り組む。

■計画

施策の展開		こどもを持ち育てたいと思える環境づくり															
施策の方向		◇ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭の調和)を図るための職場環境の改善に向けた支援															
担当課		契約検査課															
実施事業	事業No.	4101			事業名		子育て支援の取組等を事業者評価の基準とする制度の推進										
	SDGs																
									○								
	事業内容	令和6年度(2024年度)以降の総合評価の評価基準に、子育て支援の取組に関する項目を1つ以上設けます。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
																	○

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
子育て支援の取組等を事業者評価の基準とする制度の推進	件	3						6
できたこと(達成したこと)	総合入札の評価点に関わることであるため、高い実効性を確保できる状況下で、事業者に対して子育て支援の取組の啓発を行うことができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	総合入札の評価点に関わることであるため、高い実効性を確保できる状況下で、事業者に対して子育て支援の取組の啓発を行うことができる。
A		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	社会情勢や評価委員会委員の意見をうけて、適宜内容の拡充・点数の調整などを行う必要がある。
継続		

計画

施策の展開		こどもを持ち育てたいと思える環境づくり																	
施策の方向		◇ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭の調和)を図るための職場環境の改善に向けた支援																	
担当課		人権・男女共生課																	
実施事業	事業No.	4102			事業名		男女共同参画に関する啓発												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	家庭生活への男女の共同参画を促進するため、男女共同参画に関する啓発や講座を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																		○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
男女共同参画に関する各種講座への参加人数	人	6,889						9,000
できたこと(達成したこと)	いばらきジェンダー平等プランの基本目標達成に向けた取組を実施、前年の参加者数を上回った。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	いばらきジェンダー平等プランの目標達成に向けた取組を実施することができた。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	いばらきジェンダー平等プランの目標達成に向けた取組を時流に応じたテーマやニーズを把握しながら実施、多くの参加者を募る。

■計画

施策の展開		こどもを持ち育てたいと思える環境づくり																		
施策の方向		◇ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭の調和)を図るための職場環境の改善に向けた支援																		
担当課		商工労政課																		
実施事業	事業No.	4103			事業名		働きやすい職場づくり推進													
	SDGs																			
						○														
	事業内容	市内事業所における健全な雇用関係の確立及び働きやすい職場環境づくりを推進するため、セミナーの開催や障害者・高齢者雇用啓発リーフレット送付等の啓発活動を実施します。また、ワーク・ライフ・バランスや両立支援を図り、多様な雇用等の働きやすい職場づくりに取り組む市内事業所に対する認定制度を実施します。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																		○		

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
研修会・セミナー受講者数	人	40						60
働きやすい職場づくり認定事業所数	事業所	11						13
できたこと(達成したこと)	働きやすい職場づくり推進事業所認定制度について、時代に即した認定基準項目に改定し、制度運用の適正化を図ることができた。また、合同就職面接会において、求職者に対して認定を受けている企業をPRすることができ、他の事業所に対しても自主的取組を促進することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	類似する目的で実施している2つのセミナーを統合して実施したため、働きやすい職場づくりを推進するための効率的な啓発の機会となったが、延べ参加者数が減少した。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	人材確保の目的等で働きやすい職場づくり認定を取得する事業所が増えていることから、今後、本制度の周知や研修会による啓発を推進していく必要がある。
B		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	三島地域4市1町が共同で実施していた労使関係啓発講座「働く人・雇用する人のためのお役立ちセミナー」については、令和6年度をもって事業を終了するが、本市においては、今後も引き続き、働きやすい職場づくり啓発セミナー等を継続することにより、職場環境の改善に向けた啓発を推進する。また、令和7年度に働きやすい職場づくり認定事業所のシンボルとなる認定マークを制作し、自社従業員の働き方改革への意識の高揚や、他事業所の自主的取組を促進を図る。
継続		

■計画

施策の展開		こどもを持ち育てたいと思える環境づくり																		
施策の方向		◇ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭の調和)を図るための職場環境の改善に向けた支援																		
担当課		人事課																		
実施事業	事業No.	4104			事業名		特定事業主行動計画(第5期)の運用													
	SDGs																			
									○											
	事業内容	仕事と子育てが両立できる職場のモデルになるよう、茨木市特定事業主行動計画(第5期)(令和6年度(2024年度)策定)に沿って、男女問わず職員が働きやすく、ますます活躍でき、責任と自覚をもって生き生きと働けるような環境をつくるための取組を進めます。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
月平均の時間外勤務数	時間	16.16						14.98
年休取得促進(年平均)	日	13.7						12
男性の育児休業取得促進	%	74						85.0
できたこと(達成したこと)	令和2年度から令和6年度を計画期間とする第4期特定事業主行動計画の目標数値と照らし、令和6年度はすべての活動指標において目標数値を達成した。 <参考(第4期茨木市特定事業主行動計画(R2~R6))> ・月平均の時間外勤務数【目標値:16.65時間】・年休取得促進(年平均)【目標値:12日】 ・男性の育児休業取得促進【目標値:10%】							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	令和6年度については、すべての活動指標で目標値を達成したものの、コロナ対策やおにクル開館準備等により「月平均の時間外勤務数」は目標値未達となった年度もあるため、ノー残業や定時退庁の意識向上、適切な人員配置等による事務量の平準化が継続的な課題である。
A		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和6年度に策定した第5期茨木市特定業主行動計画(計画期間:令和7年度から令和11年度)に則り、目標の達成に向けて計画的に取組む。(そのため、令和11年度の目標数値を第5期茨木市特定事業主行動計画で掲げた数値に変更する。)
継続		

■計画

施策の展開		こどもを持ち育てたいと思える環境づくり																		
施策の方向		◇子育てや教育に関する経済的負担の軽減																		
担当課		こども政策課																		
実施事業	事業No.	4201			事業名		児童手当													
	SDGs																			
		○		○																
	事業内容	家庭生活の安定に寄与するとともに児童の健やかな成長を願って支給する児童手当について、制度の普及・啓発を実施します。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
対象児童数	人	43,964						—
できたこと(達成したこと)	制度改正により、所得制限の撤廃、高校生年代までの支給期間の延長、多子加算について第3子以降3万円とする抜本的拡充が図れた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) —:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	令和4年6月分以降、現況届の提出が原則不要となっているが、離婚協議中で配偶者と別居している方など届出が必要な方については、児童手当を引き続き受ける要件(児童の監督や保護、生計同一関係など)を満たしているかどうかを確認し、適正な支給に努める必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	家庭等における生活の安定に寄与し、次代の社会を担う児童の健やかな成長に資するため、引き続き児童手当を支給する。

■計画

施策の展開		こどもを持ち育てたいと思える環境づくり																	
施策の方向		◇子育てや教育に関する経済的負担の軽減																	
担当課		こども政策課																	
実施事業	事業No.	4202			事業名		こども医療費の助成												
	SDGs																		
		○		○															
	事業内容	こどもの健やかな育成を支援するため、こどもの医療費の一部を助成します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																			○

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
助成件数	件	715,256						—
できたこと(達成したこと)	こどもの医療費の一部を助成することにより、こどもの健やかな育成を支援することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) —:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	安心して必要な時に医療が受けられるよう、日頃の健康相談ができる「かかりつけ医」をもつことや、同じ病気やケガで複数の医療機関を受診する「はしご受診」を控えたりするなど、医療機関の適正な受診を心がけるよう協力を求める必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	こどもの健やかな育成を支援するため、引き続き実施する。

計画

施策の展開	こどもを持ち育てたいと思える環境づくり
施策の方向	◇子育てや教育に関する経済的負担の軽減

担当課		こども政策課																	
実施事業	事業No.	4203			事業名		未熟児医療費の助成												
	SDGs																		
		○		○															
	事業内容	入院治療を必要とする未熟児に対して、入院にかかる医療費のうち、世帯の市町村民税額に応じた自己負担分を差し引いた額を助成します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
助成件数	件	88						—
できたこと(達成したこと)	種々の未熟性があり入院治療を必要とする未熟児に対して、養育に必要な医療の給付を行うことにより、乳児の健康管理と健全な育成を図ることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) —:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	特になし。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	乳児の健康管理と健全な育成を図るため、種々の未熟性があり入院治療を必要とする未熟児に対して、養育に必要な医療の給付を引き続き行う。

■計画

施策の展開		こどもを持ち育てたいと思える環境づくり																		
施策の方向		◇子育てや教育に関する経済的負担の軽減																		
担当課		居住政策課																		
実施事業	事業No.	4204			事業名		茨木市多世代近居・同居支援													
	SDGs																			
												○								
	事業内容	多世代(親世帯と子世帯)が支えあって暮らせるまちづくりを進め、子育てや介護などの各世代が抱える不安の軽減を図るため、近居・同居するにあたっての住宅購入やリフォーム費用の一部を補助します。(補助額の上限・世帯に関する要件あり)											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
													○	○	○				○	

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
補助金の交付件数	件	39						50
できたこと(達成したこと)	補助制度の周知啓発により、ほぼ策定時の活動目標(年間40件)の補助金を交付することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	令和6年度の目標件数(年間50件)は達成できなかった。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	毎年度目標以上の申請があり、子育てや介護などの不安を抱える各世代からのニーズが高いと考えられるので制度の活用が継続する必要がある。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	次年度以降もさらに制度が活用されるよう周知・啓発を継続する。

■計画

施策の展開		こどもを持ち育てたいと思える環境づくり															
施策の方向		◇子育てや教育に関する経済的負担の軽減															
担当課		学校教育推進課															
実施事業	事業No.	4205				事業名		就学援助									
	SDGs																
		○			○												
	事業内容	学用品費、修学旅行費等の支払いが経済的に負担となっている家庭に対し、市立小・中学校へ通う児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、その費用の一部を支給します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期		こどもを持ち育てたい
																	○

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
支給決定児童生徒数	人	2,467						
できたこと(達成したこと)	CSW、SSW、こども食堂などの関係団体へ周知協力を依頼し、市広報誌等へ記事を複数回掲載し、制度の周知に努めた。現に生活に困窮している世帯について、事情を考慮した審査方法に変更したことで、すみやかに援助することができた。小学校入学準備金の支給額を引き上げ、保護者の経済的負担をさらに軽減することができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価	取組における課題	特になし。
A		

■これからの取組

今後の方向性	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、引き続き周知に努める。 申請方法や申請書様式について、より保護者が理解しやすいよう改善に努める。 電子申請の導入を進める。
継続		

計画

施策の展開	こどもを持ち育てたいと思える環境づくり
施策の方向	◇子育てや教育に関する経済的負担の軽減

担当課		学校教育推進課																	
実施事業	事業No.	4206			事業名		奨学金(高校等入学支度金)												
	SDGs																		
		○			○														
	事業内容	進学を希望する生徒が、経済的負担を理由に高等学校等への進学をあきらめないよう、奨学金(入学支度金)を支給します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを 持てる環境
												妊娠・ 出産期	就学 前期	小・中 学校期	青年・ 若者期				
																		○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
支給決定生徒数	人	152						
できたこと(達成したこと)	保護者に制度案内を確実に届けるため、中学校での担任と保護者との進路面談時に直接配付するよう、中学校に依頼した。中学卒業後も対象者となりえることも周知した。現に生活に困窮している世帯について、事情を考慮した審査方法に変更したことで、援助対象にすることができた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	特になし。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	中学卒業後も奨学金の支給対象者となりえることを、より広くに周知する必要がある。支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、引き続き周知に努める。申請方法について、定期的に振り返り、改善を検討する。電子申請の導入を進める。

■計画

施策の展開		こどもを持ち育てたいと思える環境づくり																		
施策の方向		◇子育てや教育に関する経済的負担の軽減																		
担当課		学校教育推進課																		
実施事業	事業No.	4207			事業名		山地部児童生徒通学費補助													
	SDGs																			
					○															
	事業内容	山地部に居住する児童生徒の通学の安全確保と保護者の費用負担を軽減するために、通学費を補助します。											ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
													妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																	○			

■実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
支給決定児童生徒数	人	30						
できたこと(達成したこと)	補助金を適正に支給することで、保護者の通学費負担を軽減し、また、児童生徒の通学の安全を確保した。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。							

■取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択
A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	特になし。

■これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、制度の周知を図りながら、適正に支給していく。

計画

施策の展開	こどもを持ち育てたいと思える環境づくり
施策の方向	◇共働き・子育ての推進

担当課		人権・男女共生課																	
実施事業	事業No.	4301			事業名		父親対象の子育て支援講座												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	父親の育児参加を促進するために、父親とこどもが遊びを通してふれあう機会の提供や、育児や家事の知識や技術を身につける講座を実施します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																		○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
仕事との生活と調和に関する講座(開催回数)	回	14						10
仕事との生活と調和に関する講座(参加人数)	人	164						100
できたこと(達成したこと)	安定した人気で参加希望者が多い。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	募集定員の関係で希望者全員が受講できなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
A	取組における課題	講座の内容・会場の関係で募集定員を増やすことが難しい。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	実施回数の増を図れるかどうか検討する。

計画

施策の展開		こどもを持ち育てたいと思える環境づくり																	
施策の方向		◇共働き・子育ての推進																	
担当課		人権・男女共生課																	
実施事業	事業No.	4302			事業名		女性の就労支援												
	SDGs																		
						○													
	事業内容	就労を支援する講座やセミナーの開催により、女性の職場復帰や再就職を支援します。										ライフステージ				社会的支援	環境づくり	社会全体で支援できる	こどもを持ち育てたいと思える環境
												妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期				
																		○	

実施状況

活動指標	単位	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11(目標)
女性活躍推進講座参加人数	人	44						100
できたこと(達成したこと)	ライフプランを考える上で鍵となるお金のことについて学ぶ機会を提供できた。							
できなかったこと(達成できなかったこと)	直接的に就労に結びつくカリキュラムを実施することはできなかった。							

取組の評価と課題

【評価】※プルダウンで選択

A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)

評価		
B	取組における課題	ライフプランを考えるとときにお金は切り離せず、その点について学んでいた。

これからの取組

今後の方向性		
継続	評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き就労も含めたライフプランを考えるにあたり必要な情報を提供していく。就労担当部局やハローワーク等との連携で就労に結びつく情報の提供やスキルアップを図れる事業について検討していく。